

令和2年度

決算の概況(2)

一般会計 歳出の状況

総務常任委員会関係

企画政策部

○決算の概況（2）について

1 上段の表中の表示について

- (1) 執行額、翌年度繰越額、執行残額は、単位未満の数値（四捨五入してゼロとなる500円未満の数値）がある場合は「0」（ゼロ）を表記し、該当数値のない場合は「-」（ハイフン）を表記しています。
- (2) 執行額の財源内訳欄及び執行残額の内訳欄は、単位未満の数値（四捨五入してゼロとなる500円未満の数値）がある場合は「0」（ゼロ）を表記し、該当数値のない場合は見易さを考慮し空白としています。
- (3) 個々の数字は、表示単位で四捨五入しています。また、財源内訳欄は、それぞれの数値を表示単位で四捨五入し全体額との調整を一般財源欄で行っています。

2 執行残額について

執行残額については、大きく4つの理由に分けて金額を表示するとともに、具体的な内容を【執行残額について】に記載しています。

なお、原則として千円単位の表記となっていますが、執行残額が「0」の場合（単位未満の数値がある）は、円単位で表記しています。

※令和2年度事業が令和3年度に複数の課に分割された場合は、令和3年度所管課分の数値を記載し、下段【】書きで令和2年度事業全体事業費を記載してあります。

事業の概要以降は、令和3年度所管課分の事業について作成してあります。

(例) 令和2年度事業費(●●課) 48,000千円

↓
令和2年度事業費(令和3年度○○○課) 36,000千円
令和2年度事業費(令和3年度△△△課) 12,000千円

※令和2年度と令和3年度で所管課名称が変更になった場合、または、課等の名称が変更になった場合は、下記のとおり表現とし、事業を担当する令和3年度の所管課が作成してあります。

記入例 : 令和2年度は●●課で実施した事業が
令和3年度に○○○課に移管された場合

所管課等	○○○課 (令和2年度所管は●●課)
------	-----------------------

(単位：千円)

決算書 (P ~ P)	款 項 目	所管課等	○○○課 (令和2年度所管は●●課)			
事業名						
予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
36,000 【48,000】						
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	

執行額、翌年度繰越額、執行残額の欄は、次のとおり
単位未満の数値あり : 「0」 (ゼロ)
該当数値なし : 「-」 (ハイフン)

財源内訳、内訳の欄は、次のとおり
単位未満の数値あり : 「0」 (ゼロ)
該当数値なし : 空白

(単位：千円)

決算書 (P138～P139)	2 款 1 項 7 目 企画費	所管課等	企画政策課
事業名	土地利用対策費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
488	409		347			62
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	79				79	

【目的】

上越市大規模開発行為の適正化に関する条例や国土利用計画法に基づく土地取引の届出制度の運用により、関係法令や市の各種計画等と整合を図りながら、第6次総合計画の土地利用構想に適合した土地利用を推進する。

令和2年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

○令和2年度目標

- ・上越市大規模開発行為の適正化に関する条例の運用により、市内の大規模な土地利用を審査し、第6次総合計画を始めとする市の各種計画や関係法令に適合した土地利用を推進する。
- ・国土利用計画法に基づく土地取引の届出制度の運用により、市内の大規模な土地取引情報を把握するとともに形式審査を行い、第6次総合計画を始めとする市の各種計画や関係法令に適合した土地利用の推進に活用する。

○実施内容、これまでの経過等

- ・上越市大規模開発行為の適正化に関する条例の運用
条例に基づく大規模開発行為に係る開発協定の締結件数：1件

<開発協定の締結件数>

年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
締結件数	0件	0件	0件	1件	2件	1件
開発内容	-	-	-	土採取	土採取	宅地の造成

- ・国土利用計画法に基づく土地売買等届出書の審査(県経由事務)

国土利用計画法に基づく土地売買等届出書を審査し、市の意見を付して県に提出した。

<土地売買等の届出件数>

年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
届出件数	85件	23件	60件	79件	41件	64件

決算書 (P138～P139)	2款1項7目 企画費	所管課等	企画政策課
事業名	土地利用対策費		

- ・新潟県大規模開発行為の適正化対策要綱に係る協議書の受付（県経由事務）
受付件数 0 件

○目標達成状況

- ・上越市大規模開発行為の適正化に関する条例に基づき、大規模開発予定者から提出された実施計画書 1 件について協議を行い、相手方との合意に基づき開発協定を締結することで、適正な土地利用を推進した。
- ・国土利用計画法に基づく大規模な土地取引に係る届出 64 件について、市の意見を付して、県に送付し、県から届出者に対して市の各種計画等との整合性を踏まえた指導が行われ、適正な土地利用が推進された。

【事業の成果】

市内における開発行為や土地取引について適正に審査を行い、関係法令や市の各種計画等に適合した土地利用を推進することができた。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

国土利用計画法で規定された土地売買等の届出期限を超えた違反事案が 3 件あったことから、引き続き広報上越やホームページを通じて適切な土地取引が行われるよう周知を図る。

【執行残額について】

その他：報酬及び旅費の残ほか 79

(単位：千円)

決算書 (P138～P141)	2款1項7目 企画費	所管課等	企画政策課
事業名	企画調整費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
17,425	13,023	2,741			18 (雑収入)	10,264
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	4,402		1,714	118	2,570	

【目的】

- 企画調整費（庶務関係）：国、県、関係自治体及び関係機関と連携を図りながら、要望活動などを通じ、市の施策や事業の実現を目指す。
- 重要施策企画調整事業：各種制度や事業等に関する情報収集、調査研究を行うとともに、市の重要施策の企画、立案及び総合調整を行う。また、「産・官・学・金・労・民」の連携・協働により、当市における地方創生の取組を促進する。
- 城学連携推進事業：大学と地域との連携体制を構築し、相互交流や実践活動を推進するとともに、地域の課題解決やまちづくりの推進に取り組み、地域の活性化を図る。
- 城下町高田再生推進事業：城下町高田の歴史・文化資産の活用を通じて、高田市街地の魅力や都市機能の向上を図り、定住の促進と交流人口の拡大を図る。

令和2年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

■企画調整費（庶務関係） 1,373

○令和2年度目標

- ・国、県、関係自治体及び関係機関との連携や連絡調整を図りながら、当市が抱える諸課題の早期解決及び改善に向けた提言や要望を行う。
- ・上越市内官公長連絡協議会を開催し、国・県の機関と情報や課題を共有する。

○実施内容、これまでの経過等

- ・国の概算要求及び財務省内示の時宜を捉え、国の制度・予算に対する市単独の中央要望を2回実施したほか、北信越市長会を通じて全国市長会より提言を行った。
- ・県の制度・予算に対する市単独の県要望を実施したほか、県市長会等を通じて要望を行った。
- ・記録的な大雪に伴う市民生活と経済活動を早期に安定化するための財政支援等について、国土交通及び農林水産並びに防災担当大臣に直接要望するとともに、関係省庁に要望を行った。

○目標達成状況

- ・国や県への要望活動について、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の状況等を考慮し、要望書を送付するなど、例年と方法を変更して実施した。
- ・上越市内官公長連絡協議会は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から開催を見送り、書面配布による情報共有を行った。

決算書 (P138～P141)	2 款 1 項 7 目 企画費	所管課等	企画政策課
事業名	企画調整費		

■重要施策企画調整事業 6,127

○令和 2 年度目標

- ・第 6 次総合計画に掲げた将来都市像「すこやかなまち」の実現に向けて、後期基本計画に基づく取組の着実な推進を図る。
- ・重要施策の企画・立案に必要な調査研究、情報収集等を行う。
- ・第 2 期上越市まち・ひと・しごと創生総合戦略の着実な推進に向けて、「産・官・学・金・労・民」の連携・協働を強化し、まちづくりを担う次世代の人材発掘・育成や中長期的な観点から U ターンの関心を高める新たな取組に着手する。

○実施内容、これまでの経過等

- ・第 6 次総合計画の着実な推進に向け、各施策・事業の進捗を確認するとともに、課題を把握し、新規事業の創出と既存事業の見直しを行った。
- ・第 2 期上越市まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下、「第 2 期総合戦略」）に位置付けられた民間団体等の取組について、SNS 等を通じた情報発信のほか、地方創生推進事業補助金による支援を 7 団体に対して行うとともに、上越市まち・ひと・しごと創生推進協議会において進捗管理等を行った。
- ・まちづくりを担う次世代の人材発掘と育成を図り、まちづくりへの参画につなげていくため、若者が楽しめるまちにしたいという意欲を持つ 20 代～30 代の若者との意見交換会や、先進的な取組を学ぶ講演会を行うとともに、それらに参加した若者とともにトークイベントを企画・実施した。
- ・若い世代の「ふるさと上越市」に対する理解と愛着を深めるため、市内在学の高校生が主体となって、当市の魅力を伝える動画を制作し、市の公式動画チャンネルを通じて発信した。
- ・高校生や当市出身で市外に居住する子育て世帯等の将来的な U ターンに向けた関心を高めるため、SNS 等を活用して当市の魅力や子育て環境、仕事に関する情報を発信したほか、民間企業等と連携したイベントの開催を通じて、新規フォロワーの獲得に向けた取組を行った。
- ・令和 2 年 5 月 11 日からの上越地域区柄入りナンバーの交付開始にあわせ、報道機関向けプレス発表会を開催するとともに、ラッピングを施した路線バスを運行するなど、上越ナンバーを幅広く周知する取組を行った。

○目標達成状況

- ・第 6 次総合計画に基づく施策・事業は、おおむね計画どおり進捗した。さらに計画を着実に推進するため、新型コロナウイルス感染症に対する取組と人口減少社会における地方創生の取組を基軸とした新規・拡充事業を、令和 3 年度予算に反映した。
- ・若者がまちづくりに参画する機運を高め、イベントの開催経験等を通じての人材育成とともに、当市の魅力を伝える動画の制作や SNS による発信、さらには SNS の新規フォロワーの獲得等を通じて、若い世代の「ふるさと上越市」に対する愛着醸成につながる取組を進めた。

■域学連携推進事業 40

○令和 2 年度目標

大学と地域の連携による課題解決・まちづくりの新たな取組を 2 件以上実施する。

○実施内容、これまでの経過等

大学の専門知識や学生の活力・アイデアをまちづくりにいかすため、市内で行われた域学連携の取組状況を調査した。

決算書 (P138～P141)	2 款 1 項 7 目 企画費	所管課等	企画政策課
事業名	企画調整費		

○目標達成状況

コロナ禍により大学と地域による交流が困難であったため、新たな取組に着手することができなかった。

■城下町高田再生推進事業 5,483

○令和2年度目標

- ・地域再生計画「城下町高田の歴史・文化をいかした『街の再生』」の推進に向けて、民間団体や事業者等による事業を支援する。
- ・次世代の街の担い手育成に向けて、空き町家等の利活用に取り組む自立的な推進体制の構築を目指す。

○実施内容、これまでの経過等

- ・地域再生計画に掲げる交流人口の増加を図るため、民間団体が進める高田の魅力を発信するアプリの制作を支援した。
- ・空き家等のリノベーションを通じ、次世代の街の担い手を育成するため、ワークショップや車座トークを開催するとともに、リノベーションまちづくり事業を通じて組織された民間団体の取組について、SNSを通じて情報発信を行った。
- ・「社会資本総合整備計画」及び「都市再生整備計画」の最終年度であったことから、両計画に基づき実施した事業の効果検証を行い、今後のまちづくりの方向性について検討した。

○目標達成状況

- ・地方再生計画の目標実現に資する民間団体の取組を支援するとともに、SNSによる情報発信等を通じて、高田の街なかに関心を持つ人を増やすための取組を進めた。
- ・リノベーションまちづくり事業により創設された団体と、関係町内会長や空き家の利活用を促進している他の民間団体等との連携を支援することにより、当該団体が地域で継続して活動できる体制を整えた。

【事業の成果】

- ・時宜を捉えた国や県への要望活動の実施により、道路や河川事業等の進捗や過疎地域への支援の継続などが図られた。
- ・第6次総合計画について、各施策・事業の進捗や課題を踏まえ、新規事業の創出と既存事業の見直しを行うことで、更なる推進につなげることができた。
- ・上越市まち・ひと・しごと創生推進協議会に参加する民間団体等の取組事業を支援することで、地域を挙げた地方創生の取組を推進することができた。
- ・空き家リノベーションに係るワークショップ等の取組を通じて、若者の活動団体が高田の街なかに若者が集い活動する機会の創出に取り組むとともに、そうした活動を契機として空き町家をリノベーションし店舗として開業するなど、空き町家の利活用を促進することができた。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・人口減少社会においても持続可能なまちを形成していくため、第6次総合計画及び第2期総合戦略に基づく取組を着実に推進しながら、分野横断的な政策・施策の一層の展開や地域を挙げた取組の強化を図る必要がある。
- ・域学連携について、交流の再開を見据えた準備を進めるとともに、対面による交流が困難な状況下においても、オンラインの活用等により、大学と地域の連携を推進することができる体制を検討していく必要がある。

決算書 (P138～P141)	2款1項7目 企画費	所管課等	企画政策課
事業名	企画調整費		

【執行残額について】

事業未実施：新型コロナウイルス感染症の影響により予定していた協議等が実施できなかったことに伴う普通旅費の残ほか 1,714

入札差金：委託料 118

その他：補助金の実績が当初見込みを下回ったことによる残 1,997
委託料の残ほか 573

(単位：千円)

決算書 (P140～P141)	2款1項7目 企画費	所管課等	文化振興課
事業名	歴史資源活用推進事業		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
135,586	56,760	24,210		15,500	213 借入金	16,837
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
74,650	4,176				4,176	

【目的】

市民の歴史資源の魅力をいかしたまちづくりを推進し、地域に対する誇りと愛着の涵養を図るとともに、歴史的建造物の保存と活用に向けた取組などを通して、地域の活性化と文化の振興を図る。

令和2年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

■歴史資源を活用した回遊観光の促進と賑わいの創出 42,744

○令和2年度目標

貴重な歴史資源への関心を高め、周辺地域の賑わい創出に寄与する。

○実施内容、これまでの経過等

(1) 旧今井染物屋の活用に向けた取組 37,580

① 耐震改修工事等 37,316

市文化財の旧今井染物屋を地域文化の継承と発信を行う拠点として活用するため、耐震改修工事等を行った。なお、令和3年1月の大雪に伴い、作業工程に遅れが生じたことから、関係経費の一部を令和3年度に繰り越した(工事等は令和3年4月に完了)。

- ・消耗品費 212 (コードリール、IHヒーター、作務衣ほか)
- ・委託料 145 (運搬業務委託)
- ・工事請負費 34,600 (耐震改修工事、電気設備工事、機械設備工事)
- ・備品購入費 2,359 (和机、和風椅子、作業用机ほか)

② 高田街なか回遊サイン整備委託料 238

高田の街なかにおける来訪者の回遊促進等に向けて、高田街なか回遊サイン計画に基づき、旧今井染物屋と旧金津憲太郎桶店に施設紹介サインを各1基整備した。

③ 地域おこし協力隊の募集 26

旧今井染物屋を拠点としてバテンレースの継承と発信に取り組み地域おこし協力隊を募集し、現地見学会等を行ったが、採用内定者の着任まで至らず、再募集を行った。

決算書 (P140～P141)	2款1項7目 企画費	所管課等	文化振興課
事業名	歴史資源活用推進事業		

(2) 城下町高田の歴史・文化をいかした街なか回遊観光の促進 1,229

① 『城下町高田まち歩きガイドブック』の作成

城下町として栄えた高田のまちの成り立ちを始め、高田地区にある歴史的建造物や文化財のほか、観光資源、食などの魅力を紹介する『城下町高田まち歩きガイドブック』を作成し、高田まちかど交流館、歴史博物館などの公共施設や本町商店街の一部店舗などで頒布した。

② 共通入館券の発行

街なか回遊観光を促進するため、高田城三重櫓、歴史博物館、小林古径記念美術館、スキー発祥記念館、坂口記念館の5館を利用できる共通入館券を小林古径記念美術館のオープンにあわせて10月に発行した。

(3) 街なか散策と町家の利活用の促進 256

市民団体等と連携して開催している「越後高田町家三昧」は、新型コロナウイルス感染症の影響に伴い中止となったが、耐震改修工事前の旧今井染物屋等を公開し、町家の魅力を発信した。

(4) 高田世界館の活用 2,750

高田の街なかへの誘客促進と回遊強化を図るため、国登録有形文化財の高田世界館や高田小町広場を活用した催しを8回実施し、高田の街なかの賑わい創出に取り組んだ。



高田小町広場の催しの様子

(5) 市所有の町家の維持管理 929

市が所有する町家について、必要な維持管理を行い、建物の保存や景観の保全に努めた。

○目標達成状況

- ・地域の魅力を発信するため、『城下町高田まち歩きガイドブック』を作成・頒布したほか、5館共通入館券を発行し、街なかの回遊促進と地域の賑わい創出に寄与することができた。
- ・旧今井染物屋の耐震改修工事等は、令和3年1月の大雪に伴い、作業工程に遅れが生じたが、同年4月中に工事が完了し、バテンレースを基軸とする地域文化の継承と発信の拠点施設として、4月29日に開館することができた。

<旧今井染物屋及び高田世界館の活用>

年度	旧今井染物屋		高田世界館	
	公開日数(日)	来場者数(人)	開館日数(日)	来場者数(人)
平成30年度	170	5,359	315	17,585
令和元年度	196	6,067	315	17,059
令和2年度	15	313	287	10,713

※旧今井染物屋は、耐震改修工事等に伴い、建物公開は4月1日から6月30日までのみ実施

※高田世界館は、新型コロナウイルス感染症の影響に伴い4月19日から5月15日まで休館

決算書 (P140～P141)	2 款 1 項 7 目 企画費	所管課等	文化振興課
事業名	歴史資源活用推進事業		

■歴史的旧家連携交流支援事業 10,255

○令和2年度目標

市内に点在する歴史的旧家の関心を高めるとともに、歴史的建造物等の活用と回遊の促進を図る。

○実施内容、これまでの経過等

(1) 歴史的旧家を活用する団体の連携した活動への支援 1,500

歴史的旧家5邸が連携して実施する、ホームページやパンフレットの作成、モニターツアーの実施などに係る活動費用に対して補助金を交付し支援を行った。

(2) 歴史的旧家の活用に向けた環境整備の支援 8,755

三和区の林富永邸を日常的に利活用する事業者が行う駐車場整備事業に対して補助金を交付し支援を行った。

○目標達成状況

歴史的旧家を活用する団体間の連携を通じて、ホームページやパンフレットの作成など、歴史的旧家への関心を高める取組が行われ、歴史的建造物等の活用や回遊の促進を図ることができた。

■寺町サミットの開催

○令和2年度目標

当市を含む6都市で構成する「寺町サミット」の上越市開催を通して、寺院群の歴史や魅力など、貴重な地域資源を活かしたまちづくりの取組を進める。

○実施内容、これまでの経過等

新型コロナウイルス感染症の影響に伴い、寺町サミットの開催は中止した。

○目標達成状況

新型コロナウイルス感染症の影響により、寺町サミットを開催することはできなかったが、構成市間のまちづくり団体との情報交換を目的に、各市の活動状況を紹介する「ニュースレター」の発行準備を進めた。

■雁木整備事業補助金の交付 2,250

○令和2年度目標

市民への経済的支援を行うことにより、雁木整備を促進する。

○実施内容、これまでの経過等

指定地区における雁木の新築・修繕、雁木下通路の段差解消工事に対して補助金を交付した。

<補助率・限度額>

- ・補助率：1/2
- ・限度額：500 千円

決算書 (P140～P141)	2 款 1 項 7 目 企画費	所管課等	文化振興課
事業名	歴史資源活用推進事業		

○目標達成状況

申請のあった7件の工事に補助金を交付し、市民による雁木の整備を推進した。

<令和2年度末までの地域指定及び補助金の交付状況>

年 度	地域指定		補助金交付	
	件数 (件)	指定距離 (m)	件数 (件)	金額
平成16年度～令和元年度	25	10,543	130	54,479
令和2年度	-	-	7	2,250
合計	25	10,543	137	56,729

【事業の成果】

市文化財である旧今井染物屋の開館に向け、耐震改修工事等を進めたほか、『城下町高田まち歩きガイドブック』の作成や5館共通入館券の発行により、街なか回遊の促進につなげることができた。また、高田世界館や歴史的旧家を活用する市民団体等による、歴史的建造物等を活用した新たな取組を進めることができた。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・旧今井染物屋を市文化財として適切に保存するほか、バテンレースや地域文化の継承と発信を行う拠点施設として活用を図っていく。
- ・高田地区にある歴史的建造物や文化財、観光資源などを発信し、高田の街なか回遊を促進していく。

【執行残額について】

その他：当初見込みを下回ったことによる印刷製本費、委託料、備品購入費、負担金、補助金等の残 4,176

(単位：千円)

決算書 (P142～P143)	2款1項7目 企画費	所管課等	交通政策課
事業名	新幹線整備促進費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
48,275	43,539					43,539
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	4,736	422	83		4,231	

【目的】

- 新幹線新駅周辺地区まちなみ形成推進事業：広域の玄関口である上越妙高駅周辺地区のまちなみ形成と、土地利用方針に位置付けた「質の高い新都市空間」の形成に向けた取組を推進する。
- 新幹線まちづくり推進事業：北陸新幹線開業によるまちの変化を的確に捉えながら効果的な施策を展開し、北陸新幹線をまちの力として取り込むことにより、第6次総合計画で設定した市政運営のテーマである「選ばれるまち」「住み続けたいまち」の実現を図る。
- 北陸新幹線の整備促進に向けた協議会の活動など：北陸新幹線の早期全線開通と県内駅の利便性向上に向け、沿線自治体との連携の下、関係団体に対する要望活動等を行う。

令和2年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

■新幹線新駅周辺地区まちなみ形成推進事業 42,418

○令和2年度目標

各種補助制度を通じた上越妙高駅周辺への企業進出の更なる促進を図る。

○実施内容、これまでの経過等

- ・市が東京都の企業を対象に実施した立地意向調査(700社)等を踏まえ、上越妙高駅周辺への進出に関心のあった企業への訪問(2社)やヒアリング(21社)を実施したほか、各種補助制度の周知・運用による企業進出の促進や支援、土地の利活用の見通し等の情報収集を行った。
- ・各種補助制度は、民間企業の早期進出を促すため、使用収益開始から5年以内の営業開始を認定要件としているほか、一層の加速化を図るため申請受付期限を令和元年度に設定した。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響により、計画中の事業の着工延期や見直し、企業活動の停滞などが生じた状況を踏まえ、営業開始期限までにより多くの企業進出が図られるよう申請受付期限を廃止し、関係者に周知した。

<利用実績>

区 分	件 数	金 額
企業設置等奨励金(平成25年度制定)	4件	2,389
建築資金借入利子前払事業補助金(平成28年度制定)	2件	39,296
レンタルオフィス・サポート事業補助金(平成28年度制定)	3件	726

決算書 (P142～P143)	2 款 1 項 7 目 企画費	所管課等	交通政策課
事業名	新幹線整備促進費		

○目標達成状況

集合住宅や多目的スペースが整備され、利用決定済みの土地面積が増加した。

区分	R2. 3. 31 (A)	R3. 3. 31 (B)	比較増減 (B) - (A)
利用決定済みの土地	73,943 m ² (77.0%)	77,655 m ² (80.9%)	3,712 m ²
利用を検討中の土地	12,636 m ² (13.2%)	9,829 m ² (10.2%)	△2,807 m ²
未利用の土地	9,456 m ² (9.8%)	8,551 m ² (8.9%)	△905 m ²
合計	96,035 m ² (100.0%)	96,035 m ² (100.0%)	0 m ²

■新幹線まちづくり推進事業 1,011

○令和2年度目標

北陸新幹線をいかしたまちづくりを推進するとともに、北陸新幹線上越妙高駅の利用促進を図る。

○実施内容、これまでの経過等

(1) 上越妙高駅利用啓発事業

令和5年度末の北陸新幹線敦賀延伸に向け、延伸による時間短縮効果等の利便性を市ホームページで発信した。

(2) 上越妙高駅イルミネーション事業

「上越妙高駅と共に歩む会」から寄贈された機材を活用し、上越総合技術高等学校の協力を得て、上越妙高駅東ロイイベント広場周辺においてイルミネーション事業を実施した。

<実施概要>

点灯期間：令和2年11月20日（金）～令和3年3月14日（日）

点灯時間：午後5時～11時

設置内容：東ロイイベント広場周辺の樹木13本にイルミネーションを設置したほか、上越妙高駅お出迎えキャラクター「ウェルモ」型イルミネーション2体を設置した。

○目標達成状況

利用啓発事業や上越妙高駅イルミネーション事業等により、上越妙高駅の利用促進を図ったが、新型コロナウイルス感染症の影響により、乗降客数は令和元年度を下回った。

■北陸新幹線の整備促進に向けた協議会の活動など 110

○令和2年度目標

北陸新幹線の整備状況等に関する情報収集を行うとともに、効果的な要望活動を展開する。また、利便性の高い列車の停車実現に向けた各同盟会、協議会等の構成市と連携を強化し、取組を進める。

○実施内容、これまでの経過等

(1) 要望活動

- ・当市が参画する北陸新幹線関係都市連絡協議会や北陸新幹線建設・活用促進期成同盟会、北陸新幹線建設促進同盟会を通じて、北陸新幹線の整備状況等に関する情報を的確に把握するとともに、国やJR（東日本・西日本）に対し要望活動を行った（新型コロナウイルス感染症の感染状況を勘案し、一部書面により実施）。

決算書 (P142～P143)	2款1項7目 企画費	所管課等	交通政策課
事業名	新幹線整備促進費		

- ・北陸新幹線関係都市連絡協議会では、北陸新幹線金沢・敦賀間の開業遅延等の見通しが示されたことを受け、書面による緊急要望活動を行った。

(2) 北陸新幹線建設・活用促進期成同盟会の調査研究活動等

- ・今後の要望活動や、北陸新幹線の利用促進に向けた施策を検討する際の基礎資料として、コロナ禍における北陸新幹線の利用者の動向及び上越妙高駅における乗降状況等の調査を実施した。
- ・県内の鉄道関係団体と連携し出展を予定していた「ツーリズムEXPOジャパン2020」が中止となり、北陸新幹線のPRや来場者へのアンケートが実施できなかった。
- ・関西の旅行事業者を対象にヒアリングを予定していたが、緊急事態宣言の発令やGoToトラベル事業の対応に伴う旅行業界の繁忙等により、実施時期が調整できず中止とした。

○目標達成状況

- ・要望活動について、北陸新幹線の大阪までの早期整備や上越妙高駅への利便性の高い列車の停車実現のほか、今般のコロナ禍における北陸新幹線の利用状況の調査などに基づき、収束後を見据えた利用促進や需要喚起につながる施策の推進について、国やJRに対して要望を行った。
- ・北陸新幹線金沢・敦賀間の開業遅延等の見通しが示された際には、当市が参画する北陸新幹線関係都市連絡協議会において緊急の要望活動を行い、早期開業等を強く求めた。

【事業の成果】

- ・各種補助制度の運用により、上越妙高駅周辺地区商業地域における土地利用が進み、商業施設やコンビニエンスストア、タクシー待合所兼営業所等が開業するなど、駅周辺のまちなみ形成を促進することができた。
- ・北陸新幹線建設・活用促進期成同盟会が実施した調査により、コロナ禍における北陸新幹線の利用状況等を把握し、上越妙高駅の利用促進に向けた課題整理を行うとともに、今後の要望活動を行う上での基礎資料とすることができた。
- ・北陸新幹線金沢・敦賀間の延伸開業予定が1年遅延したものの、国等への要望活動を行う中で、令和5年度末までの確実な延伸開業に向け、工事の進捗が図られている。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・上越妙高駅周辺への企業誘致の活動はもとより、各種補助制度の運用を通じて、検討中の民間事業の早期着工を促していく。
- ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大による上越妙高駅の利用状況や駅周辺地区商業地域への企業進出に係る影響を継続して把握し、要望活動や企業等への情報提供など必要な取組を行っていく。

【執行残額について】

事業費節減：上越妙高駅イルミネーション設置撤去業務委託料 422

事業未実施：事業の中止により、旅費を支出しなかったため 83

その他：上越妙高駅前への企業進出に係る補助金が当初見込みを下回ったため 4,019

総会等の書面実施等により、旅費等の実績が当初見込みを下回ったため 212

(単位：千円)

決算書 (P142～P143)	2款1項7目 企画費	所管課等	交通政策課
事業名	並行在来線対策事業		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
63,233	63,052			62,000		1,052
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	181		17		164	

【目的】

沿線の関係団体や関係機関と連携し、在来鉄道（えちごトキめき鉄道、ほくほく線、信越本線）の利便性の維持・向上及び利用促進を図るとともに、えちごトキめき鉄道㈱及び北越急行㈱の経営安定化に向けた支援を行う。

令和2年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

○令和2年度目標

- ・市民の通学や通勤、買い物などの移動手段であり、地域経済を支える重要な社会インフラである在来線の安全で安定した運行を維持するため、えちごトキめき鉄道㈱及び北越急行㈱の経営安定化を図る支援を行う。
- ・運行ダイヤや乗継ぎなど、利便性や快適性が向上するよう鉄道事業者へ働きかけを行うとともに、県及び関係自治体、鉄道事業者、関係団体と連携して利用促進や沿線交流の活性化を図る。

○実施内容、これまでの経過等

(1) えちごトキめき鉄道及びほくほく線の利用促進

- ・「ほくほく線 きっぷを撮って得しちゃおう！」企画の実施

定期券や回数券を除く、ほくほく線区間を含む乗車券をスマートフォン等で撮影し、画像を沿線の対象施設に提示することで、施設の入館料割引等のサービス特典を受けることができる企画を沿線自治体とともに支援し、利用促進を図った。

実施期間：令和2年4月1日（水）～令和3年3月31日（水）

対象施設：29施設（うち市内10施設）※12月オープン的小林古径記念美術館を含む

決算書 (P142～P143)	2 款 1 項 7 目 企画費	所管課等	交通政策課
事業名	並行在来線対策事業		

・「トキてつ×ほくほく 駅スタンプラリー2020」の実施

県や沿線自治体、えちごトキめき鉄道(株)で構成する「えちごトキめき鉄道活性化協議会」において、えちごトキめき鉄道(株)と北越急行(株)が実施したスタンプラリーを支援し、鉄道の楽しさを感じてもらおうとともに、利用促進を図った。

実施期間：令和2年9月18日(金)～11月3日(火・祝)

スタンプ設置駅：日本海ひすいライン3駅、妙高はねうまライン8駅、ほくほく線10駅、JR大系線1駅(計22駅)

景品引換人数：わくわく賞500人、トキ鉄制覇賞146人、ほくほく線制覇賞150人、全駅制覇賞100人(計896人)

・「とくべつきっぷでれっしゃにのろう！」企画の実施

県や沿線自治体等で構成する「えちごトキめき鉄道活性化協議会」と「ほくほく線沿線地域振興連絡協議会」が連携し、えちごトキめき鉄道とほくほく線の区間で利用できる幼児専用「とくべつきっぷ」を作成、沿線自治体の幼稚園・保育園等に配布し、利用促進を図った。

実施期間：令和2年9月18日(金)～令和3年3月31日(水)

実施内容：「とくべつきっぷ」を持って乗車した幼児に、各鉄道会社1回限りでノベルティを贈呈

配布枚数：上越市4,200枚(沿線自治体配布 計9,745枚)

引換人数：えちごトキめき鉄道(株)400人、北越急行(株)157人(計557人)

・「トキテツ・トレイン・フォトギャラリー」の実施

県や沿線自治体、えちごトキめき鉄道(株)で構成する「えちごトキめき鉄道活性化協議会」において、SNSを活用してえちごトキめき鉄道に関連する写真を募集、採用した写真でポスターを作成し、車内に掲示することでマイレール意識や愛着心の向上を図った。

応募期間：令和3年1月25日(月)～2月21日(日)

応募総数：130点(内28点について、採用者には記念品を贈呈。令和3年8月から9月にえちごトキめき鉄道車内へのポスター掲示を実施)

(2) えちごトキめき鉄道安定経営支援補助金

県及び沿線自治体で締結した「『並行在来線への投資・支援スキーム』に関する覚書」に基づき、えちごトキめき鉄道安定経営支援補助金を交付した。

年度	補助金額	補助金の使途
平成30年度	62,595	吊架線張り替え、き電線張り替え、可動ブラケット取替え、高圧変圧器取替え、電子踏切制御装置取替え、連絡遮断装置取替え、大型支障物検知装置取替え、橋梁ペイント塗り替え
令和元年度	62,207	き電線張り替え、可動ブラケット取替え、連絡遮断装置取替え、トンネル鋼管下束修繕、電気転てつ機取替え、橋梁ペイント塗り替え、橋梁修繕
令和2年度	59,261	可動ブラケット修繕、トンネル鋼管下束修繕、電気転てつ機取替え、電子踏切制御装置取替え、橋マクラギ交換、橋梁ペイント塗り替え

決算書 (P142～P143)	2 款 1 項 7 目 企画費	所管課等	交通政策課
事業名	並行在来線対策事業		

(3) 北越急行安全輸送設備等整備事業補助金

北越急行(株)の経営安定化に向け、同社が行う国庫補助事業に対して県及び沿線自治体が協調補助を行うスキームに基づき、北越急行安全輸送設備等整備事業補助金を交付した。

年度	補助金額	補助金の使途
平成 30 年度	2,332	ハンガー更新、レール更新、遮断器更新、融雪設備更新、自動列車停止装置更新、変圧器更新、覆工コンクリート補強
令和元年度	5,173	ハンガー更新、碍子更新、レール更新、自動列車停止装置更新、変圧器更新、列車集中制御装置更新、鉄筋コンクリート補強
令和 2 年度	2,806	碍子更新、レール更新、融雪設備更新、自動列車停止装置更新、変圧器更新、早期地震通報システム更新

(4) 信越本線の利便性向上及び利用促進

国及び J R 東日本に対し、上越・北陸新幹線直行特急実現期成同盟会や新潟県鉄道整備促進協議会を通じて、優等列車の充実、上越新幹線及び北陸新幹線との接続性確保、悪天候時等における安定輸送の確保など、在来鉄道の利便性向上や利用促進について要望活動を実施した。

○目標達成状況

- ・日本海ひすいラインでは、新駅「えちご押上ひすい海岸駅」の開業に伴い、夕方の列車を 1 両から 2 両に増結し、通学時間帯の混雑緩和が図られた。
- ・ほくほく線では、上越新幹線の運転時刻変更に伴い、乗換時間が大幅に短縮され、東京への到達時間が 16 分早くなったほか、十日町駅ホーム及び駅構内の混雑緩和を目的に、朝の通勤通学時間帯の一部列車の到着時刻を変更することにより、十日町駅で行き違う列車の到着時刻の差を広げるなど、利用者の利便性の向上が図られた。
- ・えちごトキめき鉄道(株)及び北越急行(株)が行う鉄道施設総合安全対策事業等に対し、補助金を交付し、経営安定化を支援した。
- ・駅スタンプラリー等のイベントを通じ、沿線自治体や関係団体と連携して利用促進を図った。

【事業の成果】

- ・えちごトキめき鉄道及びほくほく線については、通勤通学時間帯の混雑緩和により、利便性の維持・向上を図ることができた。
- ・えちごトキめき鉄道(株)及び北越急行(株)が行う鉄道施設総合安全対策事業等に対し補助金を交付することで、両社の経営安定化と鉄道の安全安定輸送に資することができた。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、鉄道の利用者数が大きく減少していることから、在来鉄道の利用増加とマイレール意識の醸成を図るため、引き続き、鉄道事業者及び県・沿線自治体と連携して利用促進に努めるとともに、利用促進団体等の支援や市民協働による利用促進の取組を推進する。
- ・県及び沿線自治体と連携して、えちごトキめき鉄道(株)と北越急行(株)に対し、経営安定化に向けた支援を継続する。また、両鉄道事業者は、新型コロナウイルス感染症の影響により、経営環境が一段と厳しさを増しているため、引き続き県及び沿線自治体と支援の在り方を協議していく。
- ・大雨や強風、大雪による災害、車両の不具合により列車の遅延や運休が発生した場合に備え、鉄道事業者に対し、運行情報の適時な周知を始め、取組や体制を整えるよう求めていく。

決算書 (P142～P143)	2 款 1 項 7 目 企画費	所管課等	交通政策課
事業名	並行在来線対策事業		

【執行残額について】

事業未実施：上越・北陸新幹線直行特急実現期成同盟会勉強会 17

その他：総会等の書面実施等により旅費等の実績が当初見込みを下回ったため 164

(単位：千円)

決算書 (P142～P143)	2款1項7目 企画費	所管課等	文化振興課
事業名	町家交流館高田小町管理運営費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
26,619	25,572	4,384		8,700	1,577 (使用料助)	10,911
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	1,047				1,047	

【目的】

郷土の歴史的建造物を活用し、市民が集い、交流する場を提供することにより、賑わいと活力のある地域社会の形成を図る。

令和2年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

○令和2年度目標

入館者数 30,000人

○実施内容、これまでの経過等

(1) 街なか回遊の拠点としての活用

高田の街歩きを行う市民や観光客の休憩スペースとしての利用に供したほか、周辺エリアの回遊マップや各施設のパンフレット等を設置し、観光に関する情報提供の場として活用した。

(2) 集会・イベント、文化活動などの場の提供

会議や集会、習い事など、交流や文化活動、憩いの場として利用に供した。

(3) 高田の歴史・文化の紹介

雁木と町家等の懐かしい高田ならではの街並みのほか、かつての大雪の様子を紹介する写真などを解説を添えて展示した。

(4) 物品販売の継続実施

街なか回遊の拠点としての魅力を高めるため、2年半に渡り物品販売の社会実験を行ってきたが、売上額が少額であるなどの実績を踏まえ、令和2年度をもって終了した。

(5) 駐車場の整備

高田小町周辺エリアの拠点性を高めるため、大型観光バスの駐車も可能な駐車場を新たに整備し、施設利用者や街歩きを行う観光客などの利便性の向上を図った。

決算書 (P142～P143)	2款1項7目 企画費	所管課等	文化振興課
事業名	町家交流館高田小町管理運営費		

○施設の管理実績

＜入館者数及び貸室利用状況＞

年度	入館者数 (人)	うち貸室利用者		
		利用件数 (件)	利用人数 (人)	使用料 (円)
平成30年度	28,785	1,312	14,095	1,420,451
令和元年度	28,777	1,533	14,918	1,379,874
令和2年度	17,052	919	7,032	828,230

＜令和2年度施設別の貸室利用件数及び人数＞

(単位：件・人)

ギャラリー1		ギャラリー2		和室1 (8畳)		和室2 (15畳)		多目的ホール		交流サロン		計	
件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数
-	-	22	719	371	1,137	277	1,872	248	3,284	1	20	919	7,032

※ギャラリー1は、平成30年7月1日から令和3年3月1日まで、社会実験のため市が利用

＜施設管理における市の収支状況＞

区 分		平成30年度	令和元年度	令和2年度	
				予 算	実 績
①収入	使用料収入	1,420	1,380	1,860	828
	その他	377	49	13,269	13,833
	合計	1,797	1,429	15,129	14,661
②支出	施設維持管理費	9,625	9,613	12,413	11,377
	うち委託料	6,989	6,967	8,210	7,547
	その他	-	-	14,206	14,195
	合計	9,625	9,613	26,619	25,572
③公費投入額 (②-①)		7,828	8,184	11,490	10,911
④利用者1人当たりの 公費投入額 (単位：円)		272	284	383	640

○目標達成状況

入館者数は17,052人となり、目標を達成することはできなかった。

【事業の成果】

- ・新たに整備した大型観光バスも駐車できる駐車場は、高田小町周辺における観光バスツアーの立ち寄り場所として利用されるなど、高田小町周辺エリアの拠点性の向上に寄与した。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、定期的な利用者が減ったが、様々な集会や文化活動などに利用された。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大や大雪に伴う臨時休館により、入館者数が大きく減少し、目標を達成することができなかった。
- ・大型観光バスも駐車可能な施設としての長所をいかし、市民や観光客による高田小町を拠点とした街なか回遊の促進を図る。

決算書 (P142～P143)	2款1項7目 企画費	所管課等	文化振興課
事業名	町家交流館高田小町管理運営費		

【執行残額について】

その他：当初見込みを下回ったことによる光熱水費、施設管理委託料等の残 1,047

(単位：千円)

決算書 (P142～P145)	2款1項7目 企画費	所管課等	交通政策課
事業名	地域公共交通運行対策費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
465,705	454,171	52,834	27,572	2,300		371,465
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	11,534			1,104	10,430	

【目的】

- 上越市地域公共交通活性化協議会負担金：市民ニーズや地域の特性に応じた地域公共交通の充実に向け、市民、交通事業者、行政等が連携・協力し、効率的で利便性の高い公共交通ネットワークを構築する。
- バス運行対策費補助金：児童生徒の通学や高齢者の通院など、市民の日常生活を支える重要な交通手段である路線バスや乗合タクシーの運行に対し補助を行い、生活交通を維持・確保する。
- コミュニティバス事業：市営バス停留所を適切に維持管理するとともに、路線バスが廃止となる地域等において、地域と連携して移動手段を確保する。

令和2年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

■上越市地域公共交通活性化協議会負担金 748

○令和2年度目標

- ・第2次上越市総合公共交通計画に基づき、停留所の新設や通院・買物利用に合わせたダイヤ設定等による利便性向上のほか、バス路線の重複解消等による効率化など、バス路線の再編・見直しを進める。
- ・路線バスが廃止となる地域において、地域住民の主体的な取組を支援し、住民の移動手段の確保を図る。

○実施内容、これまでの経過等

- (1) 第2次上越市総合公共交通計画に基づくバス路線の再編・見直し
 - ・上越大通り線や関山ルート等の停留所の新設、通院・買物利用に合わせたダイヤ設定などにより利便性の向上を図ったほか、高田・浦川原線と水科・今保線の重複解消、三針線の減便などにより運行の効率化を図った。
 - ・路線バスが廃止となる地域や路線バスがなかった地域において、互助による輸送の取組を促進した。
- (2) 公共交通の利用促進
 - ・北陸新幹線や在来線、路線バスなど市内公共交通の運行時刻や路線図をまとめた公共交通総合時刻表を作成・配布した。また、希望する市民に対して自宅最寄りのバス停や駅から目的地までの鉄道やバスの発着時刻、乗車料金などを記載したマイ時刻表を作成・配布した。

決算書 (P142～P145)	2款1項7目 企画費	所管課等	交通政策課
事業名	地域公共交通運行対策費		

- ・ 運転免許証返納者や高齢者向けに公共交通の割引情報をまとめたチラシを作成し、警察署や高齢者サロン等で配布した。また、路線バス等に小学生以下 50 円、中・高校生 100 円で乗車できる「夏休み『バス乗車体験』キャンペーン」を実施した。
- ・ 市営バスの利用促進を図るため、市営バス定期券と土休日乗り放題券を導入した。

○目標達成状況

- ・ 第2次上越市総合公共交通計画に基づき作成した具体的な運行ルートやダイヤ等の再編案について、地域住民、地区懇話会等と協議を行うなど、バス路線の再編・見直しを進め、利用者の利便性確保と運行の効率化を図った。
- ・ 地域で活動する団体の主体的な輸送の取組を支援し、バス路線を廃止する地域等における住民の移動手段の確保を図った。

■バス運行対策費補助金 395,559

○令和2年度目標

市民の日常生活を支える路線バスや乗合タクシーについて、前期 73 系統、後期 70 系統の運行を維持・確保する。

○実施内容、これまでの経過等

- (1) バス運行対策費補助金
 - ・ 市民の日常生活を支える路線バスや乗合タクシーの運行を維持・確保するため、バス事業者（5社）及びタクシー事業者（2社）に補助金を交付した。
 - ・ 平成28年度に策定した上越市地域公共交通再編実施計画に基づく補助金の特例措置が令和2年度前期で終了したことに加え、新型コロナウイルス感染症の影響による利用者の減に伴い、運賃収入が減少し、欠損額が増加したため、令和元年度と比較して補助金額が増加した。
- (2) バスロケーションシステム導入実証実験
 - ・ 上越大通り線、富岡線及び教育大学線の3路線において、令和2年11月1日からバスロケーションシステムを導入した。降雪時においてアクセス数が増加したことや、バスの遅延等の問合せに対し、事業者がバスの現在地を正確に伝えることができるなど、利便性の向上に寄与することが確認できたため、令和3年度に対象路線を拡充することとした。
- (3) 直江津・浦川原線のルート見直しに係る実証実験
 - ・ 保倉地区において、集落が点在している国道の旧道を運行する実証実験を実施した結果、利用者が増加したため、令和3年4月1日から一部の便について経路を変更し、運行することとした。
- (4) 島田線の上越妙高駅への乗入れに係る実証実験
 - ・ 新型コロナウイルス感染症の影響により観光需要が見込めないため、令和2年度は中止とした。

決算書 (P142～P145)	2款1項7目 企画費	所管課等	交通政策課
事業名	地域公共交通運行対策費		

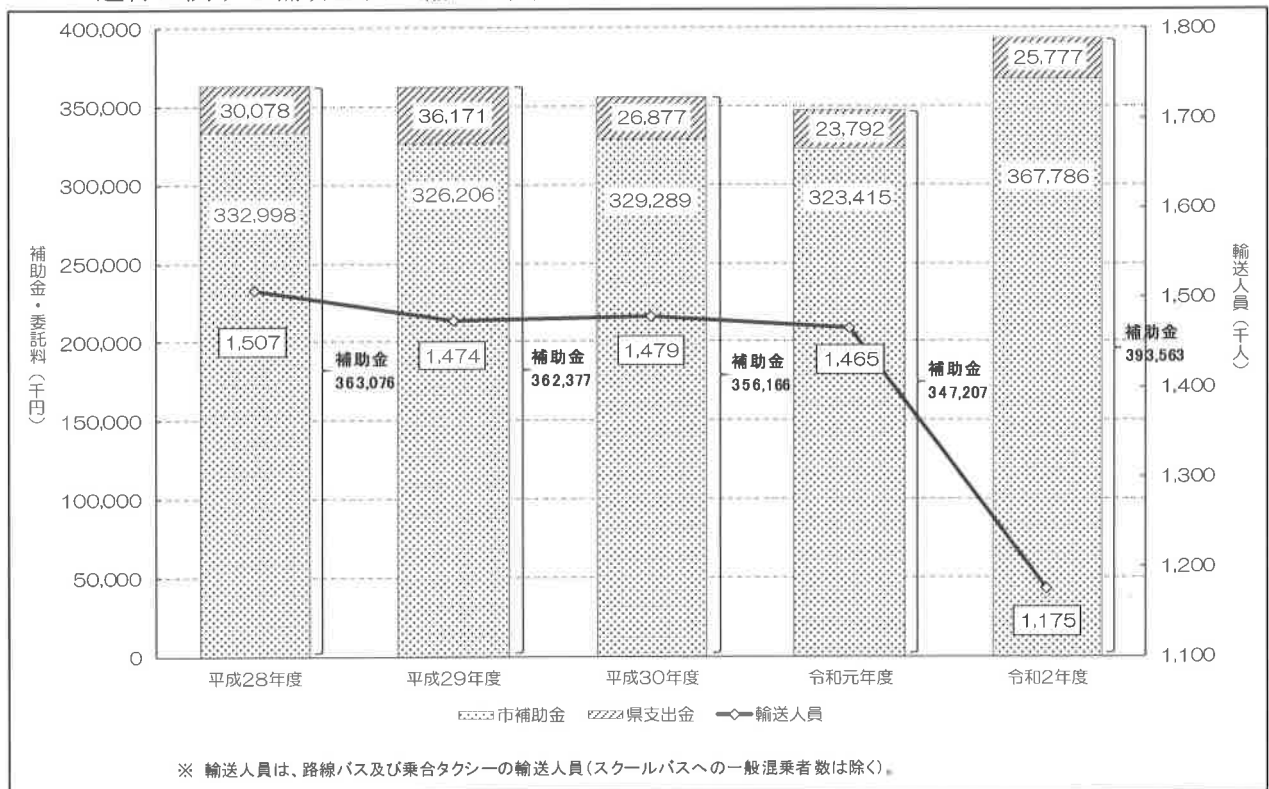
<補助区分別系統数及び市補助金額>

路線種別	系統数		補助金額	備考
	前期	後期		
国庫補助路線 (幹線系統)	6	2	55,061	低収益路線の収入不足及び欠損から国庫補助、県協調補助を差し引いた額を負担
国庫補助路線 (フィーダー系統)	21	10	26,362	国補助率：50%
県単独補助路線	9	11	72,291	県補助率：37.5%、40%
市単独補助路線	37	47	239,849	市補助率：100%
合計	73	70	393,563	

○目標達成状況

市民の生活交通を確保するため、路線バスの運行経費に対して補助金を交付し、前期73系統、後期70系統を維持した。

<バス運行に関する補助金及び輸送人員の推移>



決算書 (P142～P145)	2 款 1 項 7 目 企画費	所管課等	交通政策課
事業名	地域公共交通運行対策費		

■コミュニティバス事業 5,030

○令和2年度目標

- ・市営バス停留所を適切に維持管理する。
- ・路線バスが廃止となる地域等において、市営バスの新規導入に向けた準備を進めるほか、互助による輸送に対する支援を行い、移動手段を確保する。

○実施内容、これまでの経過等

- ・市営バス停留所の清掃や標識の修繕等の維持管理を行った。
- ・令和3年度から運行を開始する清里区市営バスの車両を購入した。
- ・路線バスが廃止となる地域等において、互助による輸送の取組を実施する2団体に対し、補助金を交付した。

○目標達成状況

清里区市営バスについて、令和3年4月の運行開始に向けて準備を進めたほか、地域で活動する団体の主体的な輸送の取組を支援し、路線バスが廃止となる地域等における住民の移動手段の確保を図った。

■新型コロナウイルス対策支援周知啓発事業 37,786

○令和2年度目標

市内公共交通機関を活用した広告により、新型コロナウイルス感染症の感染防止の啓発などに取り組むとともに、公共交通事業者を支援する。

○実施内容、これまでの経過等

新しい生活様式の普及や新型コロナウイルス感染者の人権への配慮の啓発、市内の観光促進や施設開館の周知などを図るため、鉄道やバス、タクシーの車体や車内に広告を掲載した。

<委託料の内訳>

委託事業者	内容	金額
鉄道事業者	車内ポスター（中吊、ドア横、窓上）	2,630
バス事業者	車体側面広告、車内窓上ポスター	16,630
タクシー事業者	車体マグネット広告、車内ヘッドレスト広告	18,194
印刷業務	掲出ポスター制作・印刷	332
合計		37,786

※県外高速バスの運行休止及び新型コロナウイルス感染症に関する県の警報発令を受け、高速バスへの広告掲出は見合わせた。

○目標達成状況

鉄道やバス、タクシーを活用した広告により、新しい生活様式の普及など、新型コロナウイルス感染症の感染防止の啓発のほか、市の施策等について周知を図った。また、新型コロナウイルス感染症の影響により収入が減少している公共交通事業者を広告料により支援することができた。

決算書 (P142～P145)	2款1項7目 企画費	所管課等	交通政策課
事業名	地域公共交通運行対策費		

■地域公共交通感染拡大防止対策補助金 5,400

○令和2年度目標

えちごトキめき鉄道(株)及び北越急行(株)が保有する鉄道車両や駅舎等を始め、市内を運行する路線バスとタクシーにおける感染拡大防止対策を支援する。

○実施内容、これまでの経過等

市内公共交通機関が実施する新型コロナウイルス感染防止に必要な衛生設備の導入や衛生用品の購入等に要する経費に対し、補助金を交付した。

<利用実績>

対象事業者	補助件数	補助金額
鉄道	2件	2,402
路線バス	4件	1,501
タクシー	8件	1,497
合計	14件	5,400

○目標達成状況

補助金を活用して飛沫防止シートや空気清浄機が整備され、市内公共交通機関における感染拡大防止対策を促進することができた。

■県内高速バス路線対策交付金負担金 9,648

○令和2年度目標

新型コロナウイルス感染症の影響により利用者が減少している県内の高速バスについて、運行事業者を支援し、都市間交通の維持・確保を図る。

○実施内容、これまでの経過等

県内高速バス運行事業者に対し、県及び沿線13市が協調して支援を行った。

全体支援額：173,742千円

※半期(令和2年4月～9月)の欠損額173,742千円×2(通年換算)×支援1/2

負担割合：県1/4、沿線市1/4、事業者が国の補助金を活用1/2

当市負担額：9,648千円

※沿線市の負担額は、路線ごとの支援額を各市バス停の利用者数及び距離による按分により算出。当市の負担割合は上越線47.13%と糸魚川線27.10%

○目標達成状況

県内高速バスの運行事業者に対し、新潟県及び沿線市と協調して支援を行い、路線の維持・確保が図られた。

決算書 (P142～P145)	2款1項7目 企画費	所管課等	交通政策課
事業名	地域公共交通運行対策費		

【事業の成果】

- ・第2次総合公共交通計画に基づき、各地域のバス路線の再編・見直しを進めるとともに、互助による輸送等の取組への支援を行うなど、市民の日常生活の移動手段の確保と持続可能な公共交通ネットワークの構築に向けた取組を進めた。
- ・公共交通総合時刻表や公共交通の割引情報等をまとめたチラシを作成・配布したほか、新たにバスロケーションシステムの導入やマイ時刻表の作成・配布を開始するなど、公共交通の利用促進と利便性向上を図った。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響により収入が減少している公共交通事業者に対して、補助金や広告料等による支援を行い、鉄道やバス、タクシーの運行の維持・確保が図られた。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・バスの利用実態を把握しつつ、地域と協議を重ねながら、引き続き、第2次総合公共交通計画に基づき、市民の日常生活の移動手段の確保と持続可能な公共交通ネットワークの構築に向けた取組を進める。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、バスの利用者数は大幅に減少している状況にあり、引き続き、公共交通の利便性向上など各種利用促進策に取り組んでいく。

【執行残額について】

入札差金：総合時刻表作成、清里区市営バス購入 1,104
 その他：国庫補助金が当初見込みを上回ったことによるバス運行対策費補助金の残 8,214
 実績に基づく補助金や委託料等の残 2,216

決算書 (P142～P145)	2 款 1 項 7 目 企画費	所管課等	交通政策課
事業名	地域公共交通運行対策費		

<参考>令和2年度路線別バス運行対策費補助金一覧

【国庫補助路線（地域間幹線系統）】

系統番号	路線名	起点～(主な経由地)～終点	運行回数(平日)	実車走行キロ	平均乗車密度	経常費用	経常収益
幹1	浜線 <幹1 前期分>	鶴の浜～柿崎病院前～柿崎バスターミナル	7.0	21,641.2	0.3	7,230,324	656,645
幹2	上越大通り線(本町経由)	上越妙高駅前～市役所・労災病院前～鶴の浜	15.0	265,258.8	1.6	88,622,965	25,011,729
幹3	上越大通り線(新井行き)	中央病院～上越妙高駅前～新井バスターミナル	12.0	131,862.4	1.8	44,055,227	15,206,078
幹4	直江津・蒲川原線(1) <幹4 前期分>	マルケバスター～青野十文字・蒲川原小学校前～蒲川原バスター	5.0	35,535.2	2.2	11,872,310	4,875,741
幹5	宮口線(1) <幹5 前期分>	高田駅前～中央病院・パロ～上越店前～深山荘	5.0	36,901.3	1.9	11,350,839	3,606,974
幹6	宮口線(2) <幹6 前期分>	高田駅前～中央病院～牧小学校前	5.0	23,921.4	1.9	7,358,222	2,619,054
小計 (前期6系統/後期2系統)				515,120.3		170,489,887	51,976,221

【国庫補助路線（地域内フィーダー系統）】

系統番号	路線名	起点～(主な経由地)～終点	運行回数(平日)	実車走行キロ	平均乗車密度	経常費用	経常収益
F1	黒岩線(2) <F1 前期分>	柿崎バスターミナル～米山寺・下灰庭～黒岩	3.0	5,497.7	0.7	2,119,913	189,145
F2	安塚線	うらがわら駅前～虫川大杉駅前～保健センター前	9.0	29,849.4	1.0	7,554,883	2,675,669
F3	島田線	高田駅前～岡原～曾根田	5.0	46,079.9	1.0	14,174,177	2,751,729
F4	佐内・直江津循環線	佐内入口～労災病院前～直江津駅前	4.0	23,916.8	0.5	6,223,151	639,745
F5	真砂・岡田線	高田駅前～真砂寺前～北坪山上	4.0	27,238.8	1.0	8,378,654	1,587,336
F6	直江津・蒲川原線(2) <F6 前期分>	保倉川橋～青野十文字～マルケバスター	2.0	10,731.0	0.8	3,585,227	636,147
F7	大平線(1) <F7 前期分>	蒲川原小学校前～虫川大杉駅前～大島コミュニティラザ前	3.0	8,139.6	0.5	2,060,132	300,522
F8	大平線(2) <F8 前期分>	蒲川原小学校前～虫川大杉駅前～小谷島	2.0	3,712.8	0.4	939,709	137,082
F9	吉川西部循環線(くびき駅経由) <F9 前期分>	吉川区総合事務所前～くびき駅前～吉川区総合事務所前	4.0	9,527.5	1.7	3,673,804	553,384
F10	吉川西部循環線(上下浜駅経由) <F10 前期分>	吉川区総合事務所前～上下浜駅前～吉川区総合事務所前	4.0	9,185.6	6.7	3,541,967	2,386,630
F11	清里線(下稲塚経由) <F11 前期分>	高田駅前～中央病院・下稲塚～青柳	1.0	7,157.8	1.2	2,201,739	447,340
F12	清里線(松野木経由) <F12 前期分>	高田駅前～中央病院・松野木～青柳	1.0	9,221.3	1.3	2,836,471	453,567
F13	岡沢ルート(予約運行便)	新井バスターミナル～中郷区総合事務所～岡沢	4.0	-	-	5,973,526	518,810
F14	関山ルート(予約運行便)	新井バスターミナル～姫川原～コメリ前	3.0	-	-	4,423,014	445,312
F15	月影・下保倉・末広ルート(1)	谷～蒲川原区中心部～うらがわら駅前	12.0	-	-	4,648,947	911,327
F16	月影・下保倉・末広ルート(2)	谷～蒲川原区中心部～うらがわら駅前	1.0	-	-	347,224	7,321
F17	上柿野ルート	うらがわら駅前～上柿野～うらがわら駅前	2.0	-	-	137,844	14,019
F18	小麦ルート	うらがわら駅前～小麦平～うらがわら駅前	2.0	-	-	135,031	22,694
F19	名立区自家用有償旅客運送(1) <前期のみ>	うみてらす名立前～ろばた館前～東飛山	2.0	11,343.2	-	2,125,829	209,000
F20	名立区自家用有償旅客運送(2) <前期のみ>	コミュニティラザ前～ろばた館前～東飛山	5.0	18,548.8	-	3,476,230	235,100
F21	名立区自家用有償旅客運送(3) <前期のみ>	コミュニティラザ前～名立駅前～宝田小学校前	2.5	1,733.8	-	324,931	200
小計 (前期21系統/後期10系統)				221,884.0		78,882,403	15,122,079

【県単補助路線】

系統番号	路線名	起点～(主な経由地)～終点	運行回数(平日)	実車走行キロ	平均乗車密度	経常費用	経常収益
県1	南川線(2)	労災病院前～島田～海洋センター前	5.1	42,622.8	1.6	11,090,452	4,049,167
県2	教育大学線(1)	中央病院～教育大学～直江津駅前	6.0	57,409.8	1.7	14,938,029	5,618,171
県3	春日山・佐内線(1)	直江津駅前～春日山下～中央病院	4.0	40,993.8	1.7	10,666,586	4,268,518
県4	春日山・佐内線(2)	直江津駅前～春日山下～悠々の里前	4.0	40,791.0	1.2	10,613,818	2,913,626
県5	富岡線	高田駅前～富岡・謙信公武道館前～マルケバスター	7.5	94,794.3	2.4	24,665,476	14,126,601
県6	能生線	能生案内所～名立車庫前～労災病院前	2.0	35,618.4	1.9	9,267,907	3,027,730
県7	新井・板倉線(2)	新井バスターミナル～針～板倉コミュニティラザ前	5.5	17,811.7	2.2	6,795,163	3,203,578
県8	山直海線(2)	柿崎バスターミナル～原之町～村屋	4.0	28,372.6	2.4	10,940,474	4,150,667
県9	犀潟線	海洋センター前～犀潟駅前～海洋センター前	3.5	19,063.1	1.8	7,350,731	3,306,910
	直江津・蒲川原線(1) <幹4 後期分>	マルケバスター～青野十文字・蒲川原小学校前～蒲川原バスター	5.0	35,694.4	1.7	11,925,499	3,731,615
	宮口線(1) <幹5 後期分>	高田駅前～中央病院・上越モール前～深山荘	5.0	36,803.0	1.4	11,320,602	2,620,390
小計 (前期9系統/後期11系統)				449,974.9		129,574,737	51,016,973

決算書 (P142～P145)	2款1項7目 企画費	所管課等	交通政策課
事業名	地域公共交通運行対策費		

【単位：円】

經常欠損	収支率	国庫補助 対象経費	県単補助 対象経費	市単補助 対象経費	国庫補助金 ①				市補助金 ④	市補助金 ③+④	系統 番号
					国→事業者	県→事業者	県→市→事業者	市→事業者			
6,573,679	9.0%	3,174,000	0	6,573,679	1,587,000	1,587,000	0	3,399,000	3,399,000	幹1	
63,611,236	28.2%	26,830,000	0	63,611,236	19,772,000	13,415,000	0	30,424,000	30,424,000	幹2	
28,849,149	34.5%	11,501,000	0	28,849,149	9,930,500	5,750,000	0	8,430,000	8,430,000	幹3	
6,996,569	41.0%	5,353,000	0	6,996,569	2,676,500	0	0	4,320,000	4,320,000	幹4	
7,743,865	31.7%	4,847,000	0	7,743,865	2,423,000	0	0	5,320,000	5,320,000	幹5	
4,739,168	35.5%	3,142,000	0	4,739,168	1,571,000	0	0	3,168,000	3,168,000	幹6	
118,513,666	30.4%	54,847,000	0	118,513,666	37,960,000	20,752,000	0	55,061,000	55,061,000		

經常欠損	収支率	国庫補助 対象経費	県単補助 対象経費	市単補助 対象経費	国庫補助金 ①				市補助金 ④	市補助金 ③+④	系統 番号
					国→事業者	県→事業者	県→市→事業者	市→事業者			
1,930,768	8.9%	1,704,000	0	1,930,768	852,000	0	0	1,078,000	1,078,000	F1	
4,879,214	35.4%	4,880,000	0	4,879,214	2,440,000	0	0	2,439,000	2,439,000	F2	
11,422,448	19.4%	11,424,000	0	11,422,448	5,712,000	0	0	5,710,000	5,710,000	F3	
5,583,406	10.2%	7,350,000	0	5,583,406	3,675,000	0	0	1,908,000	1,908,000	F4	
6,791,318	18.9%	6,792,000	0	6,791,318	3,396,000	0	0	3,395,000	3,395,000	F5	
2,949,080	17.7%	2,949,000	0	2,949,080	1,474,000	0	0	1,475,000	1,475,000	F6	
1,759,610	14.5%	1,759,000	0	1,759,610	879,000	0	0	880,000	880,000	F7	
802,627	14.5%	802,000	0	802,627	401,000	0	0	401,000	401,000	F8	
3,120,420	15.0%	2,729,000	0	3,120,420	1,364,500	0	0	1,755,000	1,755,000	F9	
1,155,337	67.3%	777,000	0	1,155,337	388,500	0	0	766,000	766,000	F10	
1,754,399	20.3%	1,754,000	0	1,754,399	877,000	0	0	877,000	877,000	F11	
2,382,904	15.9%	2,383,000	0	2,382,904	1,191,000	0	0	1,191,000	1,191,000	F12	
5,454,716	8.6%	3,260,000	0	5,454,716	1,630,000	0	0	220,000	220,000	F13	
3,977,702	10.0%	3,639,000	0	3,977,702	1,819,000	0	0	919,000	919,000	F14	
3,737,620	19.6%	1,610,000	0	3,737,620	805,000	0	0	2,932,000	2,932,000	F15	
339,903	2.1%	172,000	0	339,903	86,000	0	0	253,000	253,000	F16	
123,825	10.1%	102,000	0	123,825	51,000	0	0	72,000	72,000	F17	
112,337	16.8%	42,000	0	112,337	21,000	0	0	91,000	91,000	F18	
1,916,829	9.8%	1,916,000	0	1,916,829	958,000	0	0	0	0	F19	
3,241,130	6.7%	3,241,000	0	3,241,130	1,620,000	0	0	0	0	F20	
324,731	0.0%	324,000	0	324,731	162,000	0	0	0	0	F21	
63,760,324	19.1%	59,609,000	0	63,760,324	29,802,000	0	0	26,362,000	26,362,000		

經常欠損	収支率	国庫補助 対象経費	県単補助 対象経費	市単補助 対象経費	国庫補助金 ①				市補助金 ④	市補助金 ③+④	系統 番号
					国→事業者	県→事業者	県→市→事業者	市→事業者			
7,041,285	36.5%	0	7,501,000	7,041,285	0	0	2,812,000	4,229,000	7,041,000	県1	
9,319,858	37.6%	0	9,335,000	9,319,858	0	0	3,500,000	5,819,000	9,319,000	県2	
6,398,068	40.0%	0	7,313,000	6,398,068	0	0	2,742,000	3,656,000	6,398,000	県3	
7,700,192	27.4%	0	7,428,000	7,700,192	0	0	2,785,000	4,915,000	7,700,000	県4	
10,538,875	57.2%	0	9,871,000	10,538,875	0	0	3,701,000	6,837,000	10,538,000	県5	
6,240,177	32.6%	0	6,696,000	6,240,177	0	0	1,665,000	2,474,000	4,139,000	県6	
3,591,585	47.1%	0	2,714,000	3,591,585	0	0	573,000	1,324,000	1,897,000	県7	
6,789,807	37.9%	0	6,352,000	6,789,807	0	0	1,955,000	4,834,000	6,789,000	県8	
4,043,821	44.9%	0	3,297,000	4,043,821	0	0	1,236,000	2,807,000	4,043,000	県9	
8,193,884	31.2%	0	6,351,000	8,193,884	0	0	2,323,000	3,404,000	5,727,000		
8,700,212	23.1%	0	8,335,000	8,700,212	0	0	2,485,000	6,215,000	8,700,000		
78,557,764	39.3%	0	75,193,000	78,557,764	0	0	25,777,000	46,514,000	72,291,000		

決算書 (P142～P145)	2款1項7目 企画費	所管課等	交通政策課
事業名	地域公共交通運行対策費		

【市単補助路線】

系統番号	路線名	起点～(主な経由地)～終点	運行回数(平日)	実車走行キロ	平均乗車密度	経常費用	経常収益
市1	山麓線	直江津駅前～医療センター病院～上越妙高駅前	3.0	20,967.0	1.0	5,455,613	1,168,488
市2	謙信公大通り循環線	春日山駅前～上越総合病院～春日山駅前	6.0	23,280.6	0.7	6,057,612	975,299
市3	春日山駅・アルカディアシャトル便	春日山駅前～リージョンプラザ～上越総合病院	0.0	14,250.0	0.9	3,707,850	566,519
市4	謙信公大通り線	直江津ヨロビ'ン'グ'センター前～国府新町～上越総合病院	1.5	2,702.7	0.9	703,242	216,134
市5	桑取線	労災病院前～有間川橋～くわどり湯ったりり村	5.0	77,293.5	1.3	20,111,768	5,109,228
市6	清里線(1)	高田駅前～下稲塚～青柳	3.0	27,189.1	1.1	8,363,367	1,873,567
市7	清里線(2)	高田駅前～松野木～青柳	2.5	33,593.4	1.3	10,333,329	1,983,913
市8	高田・浦川原線	高田駅前～番町～浦川原バスターミナル	5.0	76,294.4	1.1	23,468,157	4,846,819
市9	増田線	高田駅前～横曽根～くびき駅前	3.0	27,474.0	0.8	8,451,002	1,424,598
市10	斐太線	新井バスターミナル～飛田～高田駅前	3.0	17,641.2	0.4	5,426,433	538,072
市11	正善寺線	大手町十字路・西城病院前～下正善寺～上正善寺	4.0	16,580.8	0.7	5,100,254	928,490
市12	青田線	高田駅前～中田原～青田	3.0	10,845.0	0.4	3,335,922	405,984
市13	菰立線	板倉中学校～菰立	6.5	15,084.2	0.3	5,754,622	425,439
市14	三針線	板倉コミュニティプラザ前～下稲塚～清里区総合事務所前	5.0	7,701.7	0.4	2,938,198	359,764
市15	泉谷・勝穂循環線(2)	原之町～平等寺～原之町	2.0	7,562.2	0.1	2,915,984	44,097
市16	くびき駅線	海洋センター前～くびき駅～海洋センター前	3.5	21,641.8	1.0	8,345,078	1,014,879
市17	上直海線	柿崎バスターミナル～上直海～柿崎バスターミナル	2.0	682.6	1.2	263,210	49,572
市18	柿崎・森本線	柿崎バスターミナル～長峰～森本	4.0	19,043.3	0.2	7,343,096	284,611
市19	水野線	柿崎バスターミナル～米山寺～水野	3.0	9,406.0	0.2	3,626,953	189,448
市20	教育大学線(2)	パロー上越店前～教育大学～直江津駅前	2.5	30,844.4	1.2	8,025,712	2,152,381
市21	清里線(3)	高田駅前～下稲塚～赤池	3.5	34,210.5	1.4	10,523,149	2,898,303
市22	山寺薬師線	板倉中学校～山寺薬師	7.0	27,544.6	0.4	10,508,264	846,890
市23	新井・板倉線(1)	けいなん病院～針～板倉コミュニティプラザ前	6.0	23,886.6	0.8	9,112,737	1,687,715
市24	黒岩線(1)	柿崎バスターミナル～米山寺～黒岩	3.0	9,415.9	0.2	3,630,771	181,873
市25	山直海線(1)	柿崎バスターミナル～村屋～尾神	5.0	49,810.2	1.2	19,206,813	3,424,073
市26	東西ルート	うらがわら駅前～浦川原区・大島区～大島コミュニティプラザ前	4.0	-	-	1,355,943	19,252
市27	岡沢ルート(定時運行)	新井バスターミナル中郷区総合事務所～岡沢	1.0	-	-	2,554,458	101,920
市28	関山ルート(定時運行)	新井バスターミナル姫川原～コメリ前	0.5	-	-	1,049,971	79,281
市29	名立線	労災病院前～うみてらす名立前～コミュニティプラザ前	3.0	39,639.0	0.4	10,314,067	1,035,197
市30	春日山・佐内線(3)	佐内入口～春日山下～中央病院・悠久の里前	2.0	29,185.2	1.2	7,593,989	1,951,955
市31	直江津・浦川原線(3)	マルケーバスターミナル～労災病院前～浦川原バスターミナル	2.0	20,564.8	1.1	6,870,999	1,349,916
市32	上関田線	板倉中学校～上関田	6.5	26,372.2	0.6	10,060,994	1,166,592
市33	泉谷・勝穂循環線(1)	原之町～後生寺～吉川小	5.0	21,496.0	1.5	8,288,857	1,656,258
市34	黒井駅線	海洋センター前～黒井駅南口～海洋センター前	3.5	31,309.6	0.9	12,072,981	2,366,072
市35	南川線(1)	労災病院前～市村～海洋センター前・頸城中学校前	5.0	35,210.8	1.3	9,161,850	3,087,019
市36	水科・今保線	高田駅前～番町～杉林入口	4.0	22,252.6	1.6	6,844,899	1,459,169
市37	柳町線	海洋センター前～柳町～海洋センター前	3.0	10,724.8	2.2	4,135,482	1,816,722
	浜線 <幹1 後期分>	輪の浜～柿崎病院前～柿崎バスターミナル	7.0	21,228.0	0.3	7,092,274	612,172
	宮口線(2) <幹6 後期分>	高田駅前～中央病院～牧小中学校前	5.0	24,284.1	1.4	7,469,789	2,038,378
	黒岩線(2) <F1 後期分>	柿崎バスターミナル～米山寺・下灰庭～黒岩	3.0	5,276.0	0.5	2,034,425	152,978
	直江津・浦川原線(2) <F6 後期分>	保倉川橋～青野十文字～マルケーバスター	2.0	10,760.4	0.8	3,595,049	583,599
	大平線(1) <F7 後期分>	浦川原小学校前～虫川大杉駅前～大島コミュニティプラザ前	3.0	8,344.8	0.4	2,112,068	253,346
	大平線(2) <F8 後期分>	浦川原小学校前～虫川大杉駅前～小谷島	2.0	3,806.4	0.3	963,399	115,562
	吉川西部循環線(くびき駅経由) <F9 後期分>	吉川区総合事務所前～くびき駅前～吉川区総合事務所前	4.0	9,745.0	1.4	3,757,672	536,504
	吉川西部循環線(上下浜駅経由) <F10 後期分>	吉川区総合事務所前～上下浜駅前～吉川区総合事務所前	4.0	9,395.3	4.5	3,622,827	1,900,257
	清里線(下稲塚経由) <F11 後期分>	高田駅前～中央病院・下稲塚～青柳	1.0	7,058.8	1.0	2,171,286	356,929
	清里線(松野木経由) <F12 後期分>	高田駅前～中央病院・松野木～青柳	1.0	9,295.2	1.1	2,859,203	398,856
	小計 (前期37系統/後期47系統)			950,894.7		308,691,318	56,634,090

【合計】

系統番号	路線名	運行回数(平日)	実車走行キロ	平均乗車密度	経常費用	経常収益
	合計 (前期73系統/後期70系統)		2,137,873.9		687,638,345	174,749,363

※再編実施計画の終了に伴い、補助区分が変更となったことから、前期と後期の系統数が異なる。

決算書 (P142～P145)	2款1項7目 企画費	所管課等	交通政策課
事業名	地域公共交通運行対策費		

経常欠損	収支率	国庫補助 対象経費	県単補助 対象経費	市単補助 対象経費	国庫補助金①	県補助金②	県補助金③	市補助金④	市補助金 ③+④	系統 番号
					国→事業者	県→事業者	県→市→事業者	市→事業者		
4,287,125	21.4%	0	0	4,287,125	0	0	0	4,287,000	4,287,000	市1
5,082,313	16.1%	0	0	5,082,313	0	0	0	5,082,000	5,082,000	市2
3,141,331	15.2%	0	0	3,141,331	0	0	0	3,141,000	3,141,000	市3
487,108	30.7%	0	0	487,108	0	0	0	487,000	487,000	市4
15,002,540	25.4%	0	0	15,002,540	0	0	0	15,002,000	15,002,000	市5
6,489,800	22.4%	0	0	6,489,800	0	0	0	6,489,000	6,489,000	市6
8,349,416	19.1%	0	0	8,349,416	0	0	0	8,349,000	8,349,000	市7
18,621,338	20.6%	0	0	18,621,338	0	0	0	18,621,000	18,621,000	市8
7,026,404	16.8%	0	0	7,026,404	0	0	0	7,026,000	7,026,000	市9
4,888,361	9.9%	0	0	4,888,361	0	0	0	2,764,000	2,764,000	市10
4,171,764	18.2%	0	0	4,171,764	0	0	0	4,171,000	4,171,000	市11
2,929,938	12.1%	0	0	2,929,938	0	0	0	2,890,000	2,890,000	市12
5,329,183	7.3%	0	0	5,329,183	0	0	0	5,329,000	5,329,000	市13
2,578,434	12.2%	0	0	2,578,434	0	0	0	2,578,000	2,578,000	市14
2,871,887	1.5%	0	0	2,871,887	0	0	0	2,871,000	2,871,000	市15
7,330,199	12.1%	0	0	7,330,199	0	0	0	7,330,000	7,330,000	市16
213,638	18.8%	0	0	213,638	0	0	0	213,000	213,000	市17
7,058,485	3.8%	0	0	7,058,485	0	0	0	7,058,000	7,058,000	市18
3,437,505	5.2%	0	0	3,437,505	0	0	0	3,437,000	3,437,000	市19
5,873,331	26.8%	0	0	5,873,331	0	0	0	5,873,000	5,873,000	市20
7,624,846	27.5%	0	0	7,624,846	0	0	0	7,624,000	7,624,000	市21
9,661,374	8.0%	0	0	9,661,374	0	0	0	9,661,000	9,661,000	市22
7,425,022	18.5%	0	0	7,425,022	0	0	0	3,353,000	3,353,000	市23
3,448,898	5.0%	0	0	3,448,898	0	0	0	3,448,000	3,448,000	市24
15,782,740	17.8%	0	0	15,782,740	0	0	0	15,782,000	15,782,000	市25
1,336,691	1.4%	0	0	1,336,691	0	0	0	1,336,000	1,336,000	市26
2,452,538	3.9%	0	0	952,000	0	0	0	665,000	665,000	市27
970,690	7.5%	0	0	908,000	0	0	0	440,000	440,000	市28
9,278,870	10.0%	0	0	9,278,870	0	0	0	9,278,000	9,278,000	市29
5,642,034	25.7%	0	0	5,642,034	0	0	0	5,642,000	5,642,000	市30
5,520,783	19.6%	0	0	4,099,756	0	0	0	4,099,000	4,099,000	市31
8,894,402	11.5%	0	0	8,894,402	0	0	0	8,894,000	8,894,000	市32
6,632,599	19.9%	0	0	6,632,599	0	0	0	6,632,000	6,632,000	市33
9,706,909	19.5%	0	0	9,706,909	0	0	0	9,706,000	9,706,000	市34
6,074,831	33.6%	0	0	6,074,831	0	0	0	6,074,000	6,074,000	市35
5,385,730	21.3%	0	0	5,385,730	0	0	0	5,385,000	5,385,000	市36
2,318,760	43.9%	0	0	2,318,760	0	0	0	2,318,000	2,318,000	市37
6,480,102	8.6%	0	0	5,013,248	0	0	0	5,013,000	5,013,000	
5,431,411	27.2%	0	0	5,431,411	0	0	0	5,431,000	5,431,000	
1,881,447	7.5%	0	0	1,881,447	0	0	0	1,881,000	1,881,000	
3,011,450	16.2%	0	0	2,267,907	0	0	0	2,267,000	2,267,000	
1,858,722	11.9%	0	0	1,858,722	0	0	0	1,858,000	1,858,000	
847,837	11.9%	0	0	847,837	0	0	0	847,000	847,000	
3,221,168	14.2%	0	0	3,221,168	0	0	0	3,221,000	3,221,000	
1,722,570	52.4%	0	0	1,722,570	0	0	0	1,722,000	1,722,000	
1,814,357	16.4%	0	0	1,814,357	0	0	0	1,814,000	1,814,000	
2,460,347	13.9%	0	0	2,460,347	0	0	0	2,460,000	2,460,000	
252,057,228	18.3%	0	0	246,862,576	0	0	0	239,849,000	239,849,000	

経常欠損	収支率	国庫補助 対象経費	県単補助 対象経費	市単補助 対象経費	国庫補助金①	県補助金②	県補助金③	市補助金④	市補助金 ③+④	系統 番号
					国→事業者	県→事業者	県→市→事業者	市→事業者		
512,888,982	25.4%	114,456,000	75,193,000	495,974,739	67,762,000	20,752,000	25,777,000	367,786,000	393,563,000	

(単位：千円)

決算書 (P144～P145)	2款1項7目 企画費	所管課等	企画政策課
事業名	定住促進奨学金貸付事業		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
1,646	1,437					1,437
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	209				209	

【目的】

本市に居住し市外の大学等に通学する学生に対し奨学金（通学費）を貸し付け、卒業後の地元就職に対するインセンティブを設けることで将来にわたる定住を促す。

令和2年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

○令和2年度目標

令和2年度からの制度改正の内容について周知を図り、奨学金を必要とする人に適切に貸付けを行う。

○実施内容、これまでの経過等

＜上越市定住促進奨学金制度の概要＞

開始年度：平成28年度

基金総額：2億円

対象者：次の要件のいずれにも該当する人

①上越市に居住する30歳未満の人

②大学、大学院、高等専門学校（専攻科を含む）及び専修学校（専門課程に限る）に在学する人

③主として公共交通機関（鉄道、路線バス等）を利用し、通学している人

貸付額：定期代の合計額の範囲内で、月額6万円まで

貸付期間：貸付決定の月から学校の最短修業年限の終期までの間で申込者が希望する期間

返還：貸付けが終了した月の翌月から起算して、6月を経過した後、4年以上16年（貸付期間の4倍）以内の期間内に返還（無利子）

返還免除：返還期間中に本市に居住し、事業所等に就業している場合は、奨学金返還額の3分の2に相当する額を免除

- 令和2年度からの制度改正の内容（貸付限度額の引上げと返還期間の延長）を含め、制度概要について広報上越やホームページに掲載するとともに、通学時間100分圏内の大学等及び公共交通機関へチラシ、ポスターを配布し、周知を行った。
- 市内高等学校を訪問し、事業のPRとあわせて、本制度に対する意見等の聞き取りを行った。

決算書 (P144～P145)	2 款 1 項 7 目 企画費	所管課等	企画政策課
事業名	定住促進奨学金貸付事業		

- ・基金の適正な運用を図るとともに、市外の大学等へ通学する学生に対する奨学金の貸付けや、卒業後も市内に居住し就業している人の返還額の一部免除等を行った。
- ・奨学金の返還方法について、口座振替を導入し、返還者の利便性向上を図った。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響による減収や失業等で奨学金の返還が困難となった人に対し、返還猶予により支援する体制を整えた。

○目標達成状況

制度改正について広く周知を図るとともに、奨学生からの請求書や申請書類を速やかに審査するなど、貸付け・返還業務を円滑に行った。

【事業の成果】

< 申込状況 >

平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	合 計
20 人	12 人	18 人	15 人	11 人	76 人

< 令和 2 年度利用状況 (令和 3 年 3 月末現在) >

貸付	返還		返還猶予	完済	その他
		うち免除			
32 人	36 人	29 人	2 人	1 人	5 人

※「その他」は、申込み後に辞退した人、貸付請求がなかった人の人数

- ・通学方法 (乗り継いでいる場合があるので利用者数と一致しない)

新幹線	在来線	路線バス
12 人	28 人	2 人

- ・通学先の市町村

県内 (18 人)			県外 (14 人)				
三条市	長岡市	柏崎市	長野市	上田市	佐久市	富山市	高崎市
1 人	12 人	5 人	8 人	2 人	1 人	2 人	1 人

- ・学校種別

4 年制大学 (12 人)		短期大学 (1 人)		専修学校 (18 人)		高等専門学校 (1 人)	
県内	県外	県内	県外	県内	県外	県内	県外
6 人	6 人	0 人	1 人	12 人	6 人	0 人	1 人

決算書 (P144～P145)	2 款 1 項 7 目 企画費	所管課等	企画政策課
事業名	定住促進奨学金貸付事業		

<貸付金残高の状況>

元年度末 現在高(A)	2 年度			2 年度末現在高 (A)+(B)-(C)-(D)
	貸付(B)	返還(C)	免除(D)	
18,942,381 円	6,479,623 円	1,043,301 円	1,427,207 円	22,951,496 円

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・奨学金を必要とする人に制度の情報が届くよう、市内高等学校を始め、大学等や公共交通機関へチラシ、ポスターを配布し、より一層の周知を図っていく。
- ・奨学金を利用する人や返還する人の意見を引き続き聴取することで利用実態を的確に把握し、より利用しやすい制度となるよう必要に応じて改善を図っていく。

【執行残額について】

その他：定住促進奨学基金繰出金の残 209

(単位：千円)

決算書 (P144～P145)	2款1項7目 企画費	所管課等	文化振興課
事業名	ライオン像のある館管理運営費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
2,324	1,824					1,824
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	500				500	

【目的】

直江津の近代史を今に伝える貴重な建物を適切に維持管理するとともに、地域の賑わい創出のため、施設の利用促進を図る。

令和2年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

○令和2年度目標

入館者数 7,000人

○実施内容、これまでの経過等

(1) 施設の活用と直江津の歴史・文化の紹介

市民や当市を訪れた人が気軽に立ち寄れる施設として、直江津の歴史や文化を紹介するパネルの展示や周辺の観光に関する情報提供を行った。

(2) イベント、文化活動などの場の提供

市民団体や大学生等による演奏会や作品展などの会場として利用されたほか、日本遺産北前船関連の歴史的資産を巡る街歩きを実施し、直江津の街なかの賑わい創出に取り組んだ。

○施設の管理実績

<入館者数及び貸室利用状況>

年度	入館者数(人)	うち貸室利用者	
		利用件数(件)	利用人数(人)
平成30年度	-	-	-
令和元年度	6,428	53	4,078
令和2年度	2,962	27	350

※平成30年度は、改修工事のため休館

決算書 (P144～P145)	2款1項7目 企画費	所管課等	文化振興課
事業名	ライオン像のある館管理運営費		

<施設管理における市の収支状況>

区 分		平成30年度	令和元年度	令和2年度	
				予 算	実 績
①収入	使用料収入	-	-	-	-
	その他	44	-	-	-
	合計	44	-	-	-
②支出	施設維持管理費	3,109	2,340	2,324	1,824
	うち委託料	52	1,751	1,761	1,426
	その他	83,759	262	-	-
	合計	86,868	2,602	2,324	1,824
③公費投入額(②-①)		86,824	2,602	2,324	1,824
④利用者1人当たりの 公費投入額(単位:円)		-	405	332	616

○目標達成状況

入館者数は2,962人となり、目標を達成することはできなかった。

【事業の成果】

- ・上越教育大学と連携して、動物や生き物をモチーフにした作品展「てくてくつながれ！来
ON☆ZOO vol.2」を小・中学校の夏休み期間中に開催し、幅広い年代の来館を促すことが
できたものの、新型コロナウイルス感染症の影響により、市民団体等による作品展や各種イ
ベントの利用が少なかった。
- ・市文化財の当施設を拠点に「直江津の歴史発見！北前船探訪まち歩きツアー」を開催し、日
本遺産に認定された北前船にまつわる直江津の歴史や文化を周知・PRすることができた。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、入館者数が大きく減少し、目標を達成することは
できなかった。
- ・引き続き、水族博物館「うみがたり」や三・八朝市に訪れる市民や観光客に当施設をPRす
るとともに、趣のある本館ホールでの演奏会や作品展などの利活用を促進していく。

【執行残額について】

その他：当初見込みを下回ったことによる消耗品費、光熱水費、営繕修繕料等の残 500

(単位：千円)

決算書 (P148～P149)	2款1項14目 上越文化会館運営費	所管課等	文化振興課
事業名	上越文化会館管理運営費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
486,175	482,623			386,300	291 (借入金)	96,032
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	3,552			3,242	310	

【目的】

指定管理者と連携しながら、気軽に文化・芸術に触れる機会や文化活動の発表の場を市民へ提供し、文化・芸術への関心を高めるとともに、主体的な文化・芸術活動を育むことで、文化の向上を図る。

令和2年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

○令和2年度目標

外壁改修工事や大ホール舞台機構設備改修工事等を適切に実施し、安全で利用しやすい環境を整える。

○実施内容、これまでの経過等

(1) 指定管理者への管理委託

<指定管理の状況>

導入開始年度：平成17年度

指定期間：令和2年度～令和6年度

指定管理者名：株式会社 NKSコーポレーション（本社：新潟市）

<芸術文化事業の内容>

(単位：人)

区分	事業名	入場(参加)者数
鑑賞事業	劇団四季「コーラスライン」(共催事業)	653
	林家正蔵独演会(単独事業)	182
	小計 2事業	835
創造事業	上越真冬の音楽会	227
	小川未明フェスティバル	126
	上越市民演劇祭	209
	上越マーチングバンドコンサート	249
	小計 4事業	811

決算書 (P148～P149)	2款1項14目 上越文化会館運営費	所管課等	文化振興課
事業名	上越文化会館管理運営費		

区分	事業名	入場(参加)者数
普及事業	ヴァイオリンDUO (牧田由起、佐々木友子)	255
	落語 (林家はな平)	240
	和太鼓 (上田秀一郎)	234
	打楽器アンサンブル (本間美恵子、倉澤桃子、藤島玲子)	230
	クリスタルボウル (野村節子)	691
	三味線と囃女唄 (小竹勇生山、小竹栄子、小竹美咲)	278
	小計 6事業	1,928
育成事業	上越マーチングバンド育成事業	372
	シニアのための演劇・合唱ワークショップ	232
	春の特別音楽講座	72
	小計 3事業	676
合計	15事業	4,250

新型コロナウイルス感染症の影響等により、4事業の実施を中止、4事業の実施を延期した。

※鑑賞事業：多様な市民ニーズを捉えた質の高い芸術作品を招へいする事業

※創造事業：新たな文化・芸術活動を創り出す市民参加型の事業

※普及事業：町内会や小・中学校に出向いて演奏会を行うアウトリーチ事業

※育成事業：演劇や合唱のワークショップなど、市民の文化意識の向上を図ることを目的とする事業

(2) 施設の整備工事

① 外壁改修工事 298,574

施設の長寿命化を図るため、老朽化した建物の外壁全面改修工事をアルミパネルによるカバー工法により行った。

・委託料 3,937 (施工監理委託)

・工事請負費 294,637

② 大ホール舞台機構設備改修工事 130,240

大ホールの老朽化した舞台機構設備の天井反射板電動昇降装置や滑車、舞台吊物機構設備制御盤等を更新する改修工事を行った。

③ 1階男子トイレ小便器改修工事 517

1階男子トイレの小便器(1基)について、ユニバーサルデザインに適合する改修工事を行った。

○施設の管理実績

区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度※	
			計画	実績
利用件数	856件	917件	-	192件
利用者数	100,371人	103,152人	24,000人	13,171人

※令和2年度は、外壁改修工事等のため、4月1日から11月13日まで休館

決算書 (P148～P149)	2款1項14目 上越文化会館運営費	所管課等	文化振興課
事業名	上越文化会館管理運営費		

○指定管理者制度導入施設における市の収支状況

区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
			予算	実績
①収入	国庫支出金	-	-	-
	市債	20,000	4,500	389,600
	諸収入	-	700	600
	合計	20,000	5,200	390,200
②支出	指定管理委託料	63,800	65,900	49,304
	施設管理委託料	518	702	655
	設計業務委託料等	-	5,038	-
	施工監理委託料	1,167	-	4,834
	報償費	34	62	34
	費用弁償	1	3	-
	修繕料	7,454	2,501	3,009
	運搬料	-	3	-
	手数料	-	380	-
	施設整備工事	22,459	-	427,739
	備品購入費	3,024	2,969	-
	補助金・交付金	-	700	600
	指定管理者営業補填金	1,126	-	-
	新型コロナウイルス減収補填金※	-	2,333	-
合計	99,583	80,591	486,175	
③公費投入額(②-①)	79,583	75,391	95,975	
④利用者1人当たりの公費投入額(単位:円)	793	731	3,999	

※新型コロナウイルス感染症の影響により利用料金収入等が減少した指定管理者に対し、協定に基づいて減収分を補填したもの

(参考) 指定管理料の増減額

前指定期間の指定管理料平均額(決算ベース)	①	65,900
令和2年度の指定管理料(委託料)	②	49,304
指定管理料の増減額	②-①	△16,596

※外壁改修工事等に伴う休館により、指定管理料が減少したもの

決算書 (P148～P149)	2款1項14目 上越文化会館運営費	所管課等	文化振興課
事業名	上越文化会館管理運営費		

○指定管理者の収支状況等

区 分		平成30年度	令和元年度	令和2年度	
				計 画	実 績
収 入	利用料金収入	16,455	13,977	4,971	3,574
	指定管理委託料	63,800	65,900	49,304	49,304
	市イベント等委託料等	2,657	-	-	-
	補助金	865	7,645	1,010	※1 491
	新型コロナウイルス減収補填金 ※2	-	2,333	-	-
	その他(入場料等)	21,903	9,324	4,583	1,907
	収 入 計 ①	105,680	99,179	59,868	55,276
支 出 ②	117,332	106,868	59,868	57,479	
差 引 (①-②)	△11,652	△7,689	0	△2,203	

※1…地域の文化・芸術活動支援事業助成金(291千円「上越市民演劇祭」、新潟県文化振興財団文化活動支援助成金(200千円「シニアのための演劇・合唱ワークショップ」)の合計額

※2…新型コロナウイルス感染症の影響により利用料金収入等が減少した指定管理者に対し、協定に基づいて減収分を補填したもの

○目標達成状況

外壁や大ホール舞台機構設備等の改修工事を実施し、安全で利用しやすい環境を整えた。

【事業の成果】

- ・創造事業では、当市とゆかりのある演劇集団による「上越市民演劇祭」のほか、小川未明の童話作品「山の上の木と雲の話」をテーマにした「小川未明フェスティバル」を開催するなど、市民とともに舞台を創り上げる事業を展開した。
- ・普及事業では、アーティストが小・中学校や町内会へ出向いて出張公演を行う「アウトリーチ事業」を18か所で実施し、身近な場所でプロの実演を気軽に鑑賞する機会を提供した。
- ・育成事業では、「上越マーチングバンド育成事業」や「シニアのための演劇・合唱ワークショップ」など、高齢者から次世代を担う子どもまで年齢を問わず、幅広く文化・芸術活動に参加することができる環境づくりを進め、市民の文化意識を向上するための事業を展開した。
- ・施設の維持管理では、4月から全館を休館し、外壁改修工事や大ホール舞台機構設備改修工事を適切に進め、予定どおり11月から施設を開館することができた。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・指定管理者が実施した鑑賞事業や創造事業について、目標とした入場者数に及ばなかった事業が見られた。今後、入場者数の増加や収支改善に向けて、文化事業のトレンドや市民ニーズを捉えながら、幅広い世代への情報発信力の強化や各種助成金の積極的な活用に注力していく必要がある。
- ・新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を徹底し、文化・芸術活動に触れる機会を確保していく。

【執行残額について】

入札差金：工事請負費 2,345、委託料 897

その他：当初見込みを下回ったことによる負担金補助及び交付金等の残 310

(単位：千円)

決算書 (P152～P155)	2款1項21目 文化振興費	所管課等	文化振興課
事業名	旧師団長官舎管理運営費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
85,311	82,496	40,190		34,000		8,306
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	2,815			209	2,606	

【目的】

市内に残る明治期の貴重な洋風の建築物として適切に保存するとともに、更なる活用に向けた取組を通して、地域の賑わい創出及び文化の振興を図る。

令和2年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

○令和2年度目標

建物改修工事等を適切に実施し、街なかの回遊性の向上と賑わいの創出につながる環境を整える。

○実施内容、これまでの経過等

(1) 民間事業者によるレストランとしての活用

民間事業者と連携しながら改修工事と利活用の準備を進め、令和3年4月1日からこれまでの建物見学に加え、レストランとして活用を始めた。

(2) 建物改修工事等 80,665

市文化財としての保存と更なる活用に向けた建物改修工事等を実施した。

- ・委託料 6,732 (施工監理業務委託、改修工事報告書作成業務委託ほか)
- ・工事請負費 72,485 (改修工事、電気設備工事、機械設備工事)
- ・備品購入費 1,213 (除雪機、カーペット、消火器、ガイドボードサインほか)
- ・水道加入者負担金ほか 235

○施設の管理実績

<入館者数及び貸室利用状況>

年度	入館者数(人)	うち貸室利用者		
		利用件数(件)	利用人数(人)	使用料(円)
平成30年度	6,215	93	1,262	80,200
令和元年度	5,987	82	609	55,570
令和2年度	613	-	-	-

※令和2年1月から改修工事に向けた準備のため、貸室は休止

※令和2年度は、改修工事のため6月から休館

決算書 (P152～P155)	2款1項21目 文化振興費	所管課等	文化振興課
事業名	旧師団長官舎管理運営費		

<施設管理における市の収支状況>

区 分		平成30年度	令和元年度	令和2年度	
				予 算	実 績
①収入	使用料収入	80	56	-	-
	その他	-	-	76,481	74,190
	合計	80	56	76,481	74,190
②支出	施設維持管理費	3,783	3,925	1,362	1,179
	うち委託料	3,339	3,396	1,055	908
	その他	5,918	5,609	83,949	81,317
	合計	9,701	9,534	85,311	82,496
③公費投入額(②-①)		9,621	9,478	8,830	8,306
④利用者1人当たりの 公費投入額(単位:円)		1,548	1,583	-	13,550

○目標達成状況

建物改修工事等を行い、これまでの建物見学に加え、民間事業者によるレストランとしても活用を開始し、街なかの回遊性の向上と賑わいの創出につながる環境を整えた。

【事業の成果】

- ・改修工事により、市文化財である本官舎の保存が適切に図られた。
- ・利活用事業者と連携しながら改修工事等を進め、建物の趣をいかしたレストランとしても活用を始めることにより、地域の賑わい創出につなげることができた。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

高田地区にある歴史的建造物や文化財、観光資源などと市文化財である当該施設を様々な形で連携することにより、街なか回遊を促進するとともに、賑わい創出を図っていく。

【執行残額について】

入札差金：施工監理委託料 209

その他：当初見込みを下回ったことによる施工監理委託料、工事請負費等の残 2,606



建物正面外観



1階婦人応接室

(単位：千円)

決算書 (P154～P155)	2款1項21目 文化振興費	所管課等	文化振興課
事業名	文化振興企画費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
3,187	3,019				383 (寄附金、譜収入)	2,636
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	168				168	

【目的】

当市の文化振興に資するため、市民が気軽に文化・芸術に親しめる環境づくりを進めるとともに、市民参加が可能な文化事業の充実を図る。

令和2年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

■市民の文化活動推進事業 2,803

○令和2年度目標

文化振興に関する情報提供や次世代への継承を中心とした文化事業を行い、文化・芸術活動への関心を高め、自主的な活動につなげる。

○実施内容、これまでの経過等

・文化振興に関する情報の収集及び提供

市民の自主的な文化・芸術活動を支援するため、国・県が行う新型コロナウイルス感染症に関連する支援事業や県文化振興財団等が行う助成事業の情報提供を行った。

○目標達成状況

・市が後援する文化・芸術活動の周知・PRや、新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン等の情報提供などを行い、市民の自主的な文化・芸術活動を支援した。

・新型コロナウイルス感染症の影響により「久比岐能」が中止となり、同公演と連携して開催している「能・狂言鑑賞教室」を実施できなかったことから、市内の中学生等に日本の伝統文化に触れる機会を提供することができなかった。

■地域の歴史的・文化的資源の保存と継承 216

○令和2年度目標

市民団体と連携し、地域の歴史的・文化的資源を広く発信する。

○実施内容、これまでの経過等

・高田瞽女顕彰事業では、高田瞽女の歴史・文化について市民の理解を深める機会として、映画「瞽女GOZE」の上映時期に合わせ、瞽女を紹介する企画展を開催した。

・瞽女文化の普及活動に取り組む団体に出演いただき座談会を行ったほか、瞽女唄奏者による演奏会を開催した。

決算書 (P154～P155)	2 款 1 項 21 目 文化振興費	所管課等	文化振興課
事業名	文化振興企画費		

(1) 高田瞽女展

期 日：令和2年8月8日（土）～9月6日（日）

会 場：ミュゼ雪小町ギャラリー

展示内容：映画「瞽女GOZE」に描かれている長岡瞽女と高田瞽女の歴史や文化を写真に解説を加えて紹介した。

来場者数：700人

※越後瞽女を題材にした絵画（渡部等氏）、書（岡田凌雲氏）、詩（国見修二氏）を展示する「“ごぜさ”の歩いた風景」展を、市とNPO法人高田瞽女の文化を保存・発信する会とで共催し、高田瞽女展と同時開催した（作品数50点）。

(2) “ごぜさ”の魅力を語る座談会

期 日：令和2年8月9日（日）

会 場：ミュゼ雪小町多目的室

出演者：瀧澤正治氏（映画「瞽女GOZE」監督）、渡部等氏（洋画家）、岡田凌雲氏（書家）、小川善司氏（NPO法人高田瞽女の文化を保存・発信する会事務局長）

司 会：国見修二氏（詩人）

参加者数：26人

(3) 瞽女唄演奏会

期 日：令和2年8月9日（日）

会 場：ミュゼ雪小町多目的室

出演者：萱森直子氏（瞽女唄奏者）

参加者数：42人

○目標達成状況

映画「瞽女GOZE」の上映時期にあわせ、市民団体と連携して展示会等を開催し、地域固有の瞽女の歴史や文化を広く発信した。

【事業の成果】

高田瞽女の歴史や文化を紹介する高田瞽女展や瞽女唄演奏会などの取組を市民団体と連携して行い、地域固有の文化に触れていただく機会を提供した。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・文化団体等が行う自主的な文化・芸術活動のほか、新たな交流や連携をいかした取組を支援する。
- ・引き続き、郷土の伝統文化について、市民団体と連携しながら、市民が気軽に触れられる機会を提供するなど、次世代に継承・発信する取組を進めていく。

【執行残額について】

その他：当初見込みを下回ったことによる報酬、共済費等の残 168

(単位：千円)

決算書 (P154～P155)	2 款 1 項 21 目 文化振興費	所管課等	文化振興課
事業名	坂口記念館管理運営費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
7,780	7,706				461 (使用料)	7,245
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	74				74	

【目的】

坂口記念館の適切な維持管理を行うとともに、文化勲章受章者で応用微生物学の世界的権威である坂口謹一郎博士を顕彰し、教育、学術及び文化の振興を図る。

令和 2 年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

○令和 2 年度目標

入館者数 5,200 人

○実施内容、これまでの経過等

(1) 坂口謹一郎博士の顕彰

- ・「越後・謙信 SAKE まつり 2020」のオンライン開催にあわせ、坂口謹一郎博士の業績や人となりを市ホームページで紹介するとともに、高田まちかど交流館を会場にパネル展「発酵文化の基礎を築いた先人たち」を開催した。
- ・坂口謹一郎博士の生誕日(11月17日)に、市と坂口謹一郎博士顕彰委員会が例年実施している甘酒の無料サービスは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から実施できなかったが、生誕日を含めた3日間を入館無料デーとし、博士の業績に気軽に触れる機会を提供した。

(2) 定期的な事業の開催

- ・市主催の事業については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、「坂口謹一郎博士と酒とつばきの祭典」は中止としたが、2月から3月にかけて雛人形を展示する「ひなまつり」を開催したほか、地域の民間団体と連携し、7月に「七夕まつり」、11月に「いも煮会」と「そばまつり」を開催した。

(3) 集会、文化活動等の場の提供

- ・頸城区出身の水墨画家から坂口記念館に水墨画屏風が寄贈されたことにあわせ、当館内の楽縫庵で寄贈者が水墨画展覧会を開催したほか、そばまつりにあわせて保倉川太鼓の演奏を披露するなど、市民等による各種会合や芸術・文化活動の場として活用された。

決算書 (P154～P155)	2 款 1 項 21 目 文化振興費	所管課等	文化振興課
事業名	坂口記念館管理運営費		

○施設の管理実績

＜入館者数及び貸館利用状況＞

年度	利用者数合計（人）			使用料（円）
	酒杜り館 入館者数(人)	楽縫庵占用 利用者数(人)		
平成 30 年度	5,090	3,220	1,870	768,690
令和元年度	4,409	2,718	1,691	653,720
令和 2 年度	2,208	1,628	580	460,860

＜施設管理における市の収支状況＞

区 分	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度		
			予 算	実 績	
①収入	使用料収入	769	654	815	461
	その他	49	59	88	-
	合計	818	713	903	461
②支出	施設維持管理費	7,262	7,588	7,780	7,706
	うち委託料	5,110	5,302	5,530	5,520
	その他	-	-	-	-
	合計	7,262	7,588	7,780	7,706
③公費投入額（②－①）	6,444	6,875	6,877	7,245	
④利用者 1 人当たりの 公費投入額（単位：円）	1,266	1,559	1,323	3,281	

○目標達成状況

入館者数は 2,208 人となり、目標を達成することはできなかった。

【事業の成果】

- 令和 3 年 2 月から 3 月にかけて開催した「ひなまつり」では、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を講じながら、発酵食品を取り入れたひな御膳を楽しむ会を実施し、令和元年度の来場者を 539 人上回る 885 人の来場者があり、坂口謹一郎博士の功績や「発酵のまち上越」を PR することができた。
- 当館を含め小林古径記念美術館など全 5 館を見学できる共通入館券を 10 月から新たに発行したことにより、他館から回遊した来場者が 121 人いるなど、共通入館券による効果が生まれている。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大や大雪に伴う臨時休館、催しの中止などにより、入館者数が大きく減少し、目標を達成することができなかった。
- 令和 2 年 10 月から始めた SNS を通じて、坂口記念館における各種イベントの案内や雪椿園の様子などの情報を発信するとともに、頸城区観光協会等とも連携し、坂口謹一郎博士の顕彰と地域の活性化を図っていく。

【執行残額について】

その他：当初見込みを下回ったことによる電気料金、燃料費等の残 74

(単位：千円)

決算書 (P154～P155)	2款1項21目 文化振興費	所管課等	文化振興課
事業名	小川未明文学館管理運営費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
8,924	8,707				86 (使用料、譲収入)	8,621
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	217				217	

【目的】

未明文学の紹介と関係資料の展示、各種講座等やおはなし会の開催を通じて、小川未明の業績やその作品を広く紹介し、教育、学術及び文化の振興を図る。

小川未明文学賞を開催することにより、次代を担う子どもたちの感性や想像力、郷土に対する愛着心や誇りを育む。

令和2年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

■展覧会・講座等の企画運営 1,318

○令和2年度目標

各種講座の受講者の満足度 90.0%

※受講者へのアンケートで「大変良い」「良い」「どちらとも言えない」「良くない」「非常に良くない」の評価項目のうち、「大変良い」「良い」と評価した人の割合

○実施内容、これまでの経過等

(1) 特別展の開催

① 特別展 画家・古志野実が描いた未明童話

古志野実氏(画家)が描いた未明童話「殿さまの茶わん」「月とあざらし」「負傷した線路と月」の絵画など約60点を展示し、来場者が未明童話に触れる機会を提供した。

会期：令和2年10月10日(土)～11月29日(日)

会場：小川未明文学館 市民ギャラリー

入館者数：3,237人



特別展 画家・古志野実が描いた未明童話

決算書 (P154～P155)	2款1項21目 文化振興費	所管課等	文化振興課
事業名	小川未明文学館管理運営費		

(2) 各種講座の開催

① 文学館講座

小川未明や特別展にちなんだ講座を実施した。

第1回 期 日：令和2年10月31日（土）

演 題：小川未明のスペイン風邪の体験と感染症小説

講 師：小笠裕二氏（上越教育大学教授・小川未明文学館専門指導員）

受講者数：26人

第2回 期 日：令和2年11月23日（月・祝）

演 題：未明童話アニメーションの魅力

講 師：森下成一氏（有限会社スタジオトゥインクル代表取締役）

聴 き 手：小笠裕二氏（上越教育大学教授・小川未明文学館専門指導員）

受講者数：28人

② 童話創作講座

期 日：令和2年11月22日（日）、11月29日（日）

※このほかに郵送による添削方式の通信講座を1回実施

講 師：佐々木^{かくこ}赫子氏（児童文学作家）

受講者数：8人

③ 朗読研修会

期 日：令和2年10月29日（木）、11月5日（木）、11月12日（木）

講 師：橋由貴氏（朗読療法士・ヴォイスアーティスト）

受講者数：14人

(3) 未明ボランティアネットワークによるおはなし会の開催

① 文学館おはなし会

文学館の入館者を対象に、未明童話の朗読を行った。

実 施 日：毎月第2・第4日曜日

参加者数：全17回、延べ184人

② 出張おはなし会

市内の小学校を訪問し、未明童話の朗読を行った。

参加者数：8校、405人

(4) 子ども向け事業の開催

① 小川未明文学館こどもクラフト体験

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、「小川未明文学館こども祭」の代わりに、未明童話「野ばら」「夏の日ざかり」をテーマにした工作のみの体験を、規模を縮小して行った。

実 施 日：令和2年8月22日（土）

参加者数：71人

② 未明童話の小冊子の配布

未明童話を月替わりで1作品ずつ冊子にして無償配布した。

年間配布数：564冊

決算書 (P154～P155)	2 款 1 項 21 目 文化振興費	所管課等	文化振興課
事業名	小川未明文学館管理運営費		

(5) 文学館資料の収集・調査及び活用

① 特集展示1 新収蔵品展—絵雑誌と自筆原稿—

令和元年度に新たに収蔵した資料の中から、未明童話が掲載された絵雑誌等を紹介した。

会期：令和2年3月20日（金・祝）～7月9日（木）

② 特集展示2 「野ばら」の100年

発表から100年を迎えた未明童話の代表作「野ばら」について、発表当時の状況や100年の間に出版された書籍等を紹介した。

会期：令和2年7月11日（土）～9月30日（水）

③ 特集展示3 100年前の童話雑誌と未明

大正時代、童話・童謡の流行とともに誕生した多くの童話雑誌と未明がどのようにかわり、未明はどんな作品を発表したのかを紹介した。

会期：令和2年10月2日（金）～12月23日（水）

④ 特集展示4 小川未明と坪田譲治

未明の愛弟子である坪田譲治と未明との、50年にわたる交友を紹介した。

会期：令和2年12月25日（金）～令和3年4月7日（水）

○目標達成状況

各種講座の受講者の満足度 97.6%

■文学館の管理運営 3,451

○令和2年度目標

入館者数 30,000人

○実施内容、これまでの経過等

(1) 館報の刊行

館報（年刊）を刊行し、文学館の事業やボランティアの活動などを広く紹介した。

発行部数 1,000部（5月刊行）

(2) 文学館専門指導員の設置

文学館の事業や運営、資料収集、展覧会の企画内容などについて、小川未明研究の第一人者である小埜裕二専門指導員（上越教育大学教授）から指導や助言を受けながら、必要な資料の収集や効果的な資料展示を行った。

(3) 市民ギャラリーの貸室

市民の文化活動の推進のため、市民ギャラリーの貸室を行った。

<入館者数及びギャラリー貸室利用状況>

年度	入館者数(人)	うち貸室利用者		
		利用件数(件)	利用人数(人)	使用料(円)
平成30年度	28,286	19	9,500	439,670
令和元年度	29,737	18	8,991	411,565
令和2年度	14,459	9	4,368	64,170

決算書 (P154～P155)	2 款 1 項 21 目 文化振興費	所管課等	文化振興課
事業名	小川未明文学館管理運営費		

○目標達成状況

入館者数は 14,459 人となり、目標を達成することはできなかった。

■小川未明文学賞の開催 3,938

○令和 2 年度目標

小川未明文学賞応募数 500 編

○実施内容、これまでの経過等

第 29 回小川未明文学賞

小川未明文学賞委員会へ交付金を交付

<応募数> 546 編 (短編部門 310 編・長編部門 236 編) (うち市民からの応募 7 編)

<受賞作> 大賞 (1 編)「屋根に上る」かみや としこ (愛知県)

優秀賞 (1 編)「さよならトルモリ王国」ハンノタ ヒロノブ (神奈川県)

<贈呈式> 期 日：令和 3 年 3 月 27 日 (土)

会 場：小川未明文学館 市民ギャラリー

内 容：小川未明文学賞最終選考委員による講評、受賞者の挨拶



大賞受賞者へ花束の贈呈

○目標達成状況

小川未明文学賞応募数 546 編

【事業の成果】

- ・特別展や特集展示、各種講座やおはなし会等の開催を通じて、大人から子どもまで小川未明の業績に触れ、未明作品に親しんでもらうことができた。
- ・毎年、大賞作が大手出版社から書籍化されており、過去の大賞作品が様々な推薦図書等へ選ばれ紹介されている。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・小川未明の作品や業績に関して市民の認知度を更に高めるとともに、未明童話に親しんでもらうため、引き続き小川未明文学館で開催する特別展や特集展示、各種講座の内容を充実させていく。
- ・小川未明文学賞について、小川未明文学賞委員会等と連携し、より一層、作品募集の周知を図るとともに、文学賞の開催を通じて、小川未明の作品や業績、当市に係る情報を市内外に広く発信する。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響や大雪に伴う臨時休館により、例年開催されている展覧会などが中止となり、入館者数が大きく減少した。

【執行残額について】

その他：当初見込みを下回ったことによる、報酬、旅費、修繕料等の残 217

(単位：千円)

決算書 (P156～P157)	2款1項21目 文化振興費	所管課等	文化振興課
事業名	高田まちかど交流館管理運営費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
7,618	6,494				181 (使用料)	6,313
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	1,124			85	1,039	

【目的】

昭和の高田界限の歴史を感じることができる施設として適切に維持管理するとともに、地域の賑わい創出のため、施設の利用促進を図る。

令和2年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

○令和2年度目標

入館者数 26,000人

○実施内容、これまでの経過等

(1) 街なか回遊の拠点としての活用

街歩きを行う市民や観光客の小休憩に利用されたほか、当館及び商店街で開催される催しや観光に関するパンフレットなどを設置し、街なか回遊のための情報提供を行った。

(2) イベント、文化活動などの場の提供

合唱の練習や各種コンサート、企業の商品展示会等の会場に活用されたほか、文化団体によるアート作品の展示や動画撮影など様々な活動の場として活用された。

(3) 「音楽活動時の感染対策講習会及び公開練習会」の開催

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、公演を行うまでには練習を重ねられなかった団体が多かった状況を踏まえ、「公開練習会」を開催した。あわせて、正しい感染予防対策を講じた上で安心して文化活動を行っていただくため、専門家による感染対策講習会と各団体へのアドバイスをを行うことにより、音楽イベントの継続に向けた支援を行った。

○施設の管理実績

<入館者数及び貸館利用状況>

年度	入館者数(人)	うち貸館利用者		
		利用件数(件)	利用人数(人)	使用料(円)
平成30年度	23,988	66	5,739	311,340
令和元年度	24,342	82	2,131	175,850
令和2年度	10,940	99	2,150	181,080

決算書 (P156～P157)	2款1項21目 文化振興費	所管課等	文化振興課
事業名	高田まちかど交流館管理運営費		

<施設管理における市の収支状況>

区分		平成30年度	令和元年度	令和2年度	
				予算	実績
① 収入	使用料収入	311	176	310	181
	その他	1	-	-	-
	合計	312	176	310	181
② 支出	施設維持管理費	5,695	5,133	5,934	4,987
	うち委託料	2,273	2,178	3,050	2,393
	その他	1,550	1,755	1,684	1,507
	合計	7,245	6,888	7,618	6,494
③ 公費投入額 (②-①)		6,933	6,712	7,308	6,313
④ 利用者1人当たりの 公費投入額 (単位:円)		289	276	281	577

○目標達成状況

入館者数は10,940人となり、目標を達成することはできなかった。

【事業の成果】

- ・新型コロナウイルス感染症の影響により入館者数は減少したが、音楽活動を行う市民団体等による練習の利用が増え、コロナ禍に関わらず貸館利用件数は開館以降で最多となった。
- ・建物の雰囲気をつかしたPR動画の撮影や市内事業者の商品説明会の会場としても利用された。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・引き続き、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を徹底しながら、街なかの回遊の拠点としての活用を進める。
- ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況を注視しながら、音楽活動を行う団体や文化団体による活用を促進していく。

【執行残額について】

入札差金：施設管理委託料 85

その他：当初見込みを下回ったことによる施設管理委託料、光熱水費等の残 1,039



音楽活動時の感染対策講習会の様子



高田本町ストリートピアノの様子

(単位：千円)

決算書 (P156～P157)	2 款 1 項 21 目 文化振興費	所管課等	文化振興課
事業名	ミューゼ雪小町管理運営費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
15,608	15,527				1,846 (使用料等)	13,681
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	81			15	66	

【目的】

芸術活動及び文化交流の場を提供することにより、市民による芸術文化の振興を図り、賑わいと活力ある地域社会の形成に資する。

令和 2 年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

○令和 2 年度目標

入館者数 56,000 人

○実施内容、これまでの経過等

(1) 芸術文化活動などの場の提供

美術館的仕様のギャラリーと創作活動・集会機能を持つ多目的室の貸室を行い、市民の文化・芸術活動や交流の場として利用された。

(2) 企画展などの開催

高田馨女を顕彰する企画展を市民団体と連携して開催したほか、「日本博を契機とした障害者の文化芸術フェスティバル in 東海・北陸ブロック Art Brut CREATION Nippon in NIIGATA」などが開催された。

○施設の管理実績

<入館者数及び貸室利用状況>

年度	入館者数 (人)	うち貸室利用者		
		利用件数 (件)	利用人数 (人)	使用料 (円)
平成 30 年度	51,039	686	18,073	2,316,852
令和元年度	54,643	601	16,751	1,913,325
令和 2 年度	25,046	417	7,672	1,794,265

※複数日の貸室の場合は 1 日 1 件でカウント、使用場所が複数の場合は 1 件でカウント

決算書 (P156～P157)	2款1項21目 文化振興費	所管課等	文化振興課
事業名	ミュゼ雪小町管理運営費		

<施設管理における市の収支状況>

区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度		
			予算	実績	
①収入	使用料収入	2,317	1,913	2,694	1,794
	その他	40	48	42	52
	合計	2,357	1,961	2,736	1,846
②支出	施設維持管理費	15,233	15,730	15,608	15,527
	うち委託料	6,713	6,918	7,560	7,545
	その他	-	-	-	-
	合計	15,233	15,730	15,608	15,527
③公費投入額(②-①)	12,876	13,769	12,872	13,681	
④利用者1人当たりの 公費投入額(単位:円)	252	252	230	546	

○目標達成状況

入館者数は25,046人となり、目標を達成することはできなかった。

【事業の成果】

新型コロナウイルス感染症の影響により、例年開催している企画展などの催しを中止する団体が多かったことから、入館者数が大きく減少した。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・新型コロナウイルス感染症の影響や大雪に伴う臨時休館により、展覧会や作品展、いけばな展など例年開催されている企画展等が中止となり、入館者数が大きく減少し、目標を達成することができなかった。
- ・引き続き、新型コロナウイルス感染症の拡大防止策を講じながら、文化・芸術団体等による施設の利用促進に向けた取組を進めていく。

【執行残額について】

入札差金：施設管理委託料 15

その他：当初見込みを下回ったことによる、報酬、使用料及び賃借料等の残 66

(単位：千円)

決算書 (P158～P159)	2 款 1 項 23 目 政策研究所費	所管課等	上越市創造行政研究所
事業名	調査・研究費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
7,305	5,715					5,715
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	1,590	234	1,142	202	12	

【目的】

調査研究等を通じて市政における重要課題の解決や理想像の構築に寄与し、地方自治体としての政策形成能力の向上を図る。

令和 2 年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

○令和 2 年度目標

- ・これまでの調査研究において蓄積してきた人口等の統計データや地域資源情報など、政策形成に必要とされる基礎データについて、調査研究事業の基礎資料として継続的な維持・更新及び活用を行う。
- ・市内の総合的かつ中長期的な視点に基づく政策立案を支援するため、市内関係課と連携した調査研究を行う。
- ・地域全体の政策形成能力向上のため、地域の有識者や研究機関との研究ネットワークを構築するとともに、研究成果を用いて地域へ直接的に働きかける研究交流を推進する。

○実施内容、これまでの経過等

(1) 調査研究

① 地域学習に資するデータベースの更新

すでに保有する人口等の統計データを更新したほか、地域資源に関する情報収集を行い、市内内外への情報提供により、データを活用した地域学習や政策立案を支援した。

② 国際化の在り方に関する調査研究

市内関係課と連携して先行事例調査等を実施したほか、市内や国内の国際的活動の状況を踏まえ、当市の持続的発展に資する国際化の在り方や推進方策について取りまとめを行った。

③ 地域づくりに資するプラットフォームに関する調査研究

国内におけるプラットフォームの活用事例を調査し、当地域における設置の意義と可能性を整理した。

決算書 (P158～P159)	2 款 1 項 23 目 政策研究所費	所管課等	上越市創造行政研究所
事業名	調査・研究費		

(2) 研究交流・情報発信

- ① 信越県境地域づくり交流会による勉強会の開催
持続可能な地域づくりに向けた学びと交流を深める広域プラットフォームを構築するため、関係機関との広域・異業種連携による企画運営を行い、オンラインによる勉強会を8回開催した。
- ② フォーラムや勉強会の開催
上越教育大学教科内容先端研究センターとの共催による地域課題をテーマとしたフォーラムやSDGsに関する庁内勉強会（まちづくり職員トーク）を開催した。
- ③ 市内教育機関や市民団体等への学習支援
市内の教育機関や市民団体等の依頼により、人口動態や地域学習の手法などに関する話題提供を行った。
- ④ ニュースレターの発行
調査研究の一部を紹介するほか、当市のまちづくりを考える上で共有すべき課題等を発信するため、ニュースレター「創造行政」を3回作成した。
- ⑤ 学会等での研究成果発表等の実施
国内の研究機関との研究ノウハウ共有や研究ネットワーク強化を推進するため、地域政策に係るフォーラムにおいて研究成果を発表した。

○目標達成状況

- ・人口等の統計データや地域資源情報については、継続的な調査活動によって維持・更新を行ったほか、情報提供や勉強会の開催によって活用を促進した。
- ・国際化の在り方に関する調査研究において、庁内関係課と連携した事例調査や意見交換を行い、課題の共有や推進方策等の共通認識を図った。
- ・新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、調査研究や研究交流の一部にオンラインの手法を取り入れ、研究ネットワークの維持を図るとともに、市民への学習機会を提供した。

【事業の成果】

各種調査研究や研究交流・情報発信を通じて、地方自治体としての政策形成能力の向上に貢献した。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、県外への調査や研究交流の一部について実施を見合わせる事となった。
- ・政策形成に必要とされる基礎的データについては、対象範囲を拡充するほか、これらの継続的な更新・公表を体系的・計画的に行うための仕組みづくりが必要である。
- ・過年度調査研究の継承・発展や新たな調査研究の推進力を更に高めるため、一層の調査研究能力やコーディネート能力の維持・強化が必要である。

決算書 (P158～P159)	2 款 1 項 23 目 政策研究所費	所管課等	上越市創造行政研究所
事業名	調査・研究費		

【執行残額について】

事業費節減：オンライン勉強会の開催や参加による費用弁償等の減 234

事業未実施：新型コロナウイルス感染症の影響による事業内容の見直し 1,142

入札差金：ニューズレター印刷製本、庁用備品購入 202

その他：事業実績による不用額 12

(単位：千円)

決算書 (P164～P165)	2款1項29目 鉄道駅舎等管理費	所管課等	交通政策課
事業名	鉄道駅舎等管理運営費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
8,748	8,189				369 (財源収入、譲収入)	7,820
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	559		78	40	441	

【目的】

市が所有するほくほく線及び信越本線の駅待合所等関連施設の適切な維持管理等を通じ、鉄道利用者の安全確保及び利便性向上を図る。

令和2年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

○実施内容、これまでの経過等

駅待合所等関連施設の清掃、周辺の草刈り、修繕等の維持管理を行った。

路線名	区名	駅名	決算額	主な経費
ほくほく線	浦川原区	うらがわら駅 虫川大杉駅	4,472	電気料金 712
				営繕修繕料 608 (うらがわら駅エレベーター内防犯カメラ取替修繕等)
	施設管理委託料 2,960			
ほくほく線	大島区	ほくほく大島駅	1,721	電気料金 780
				営繕修繕料 39 (ほくほく大島駅ホーム連絡口ドア修繕等)
				施設管理委託料 801
ほくほく線	頸城区	くびき駅 大池いこいの森駅	1,441	電気料金 347
				営繕修繕料 28 (くびき駅外灯修繕)
				施設管理委託料 911
信越本線	大潟区	犀潟駅 土底浜駅	555	報償金 203
				電気料金 56
				営繕修繕料 49 (犀潟駅前トイレ照明修繕等)
				施設管理委託料 176

決算書 (P164～P165)	2 款 1 項 29 目 鉄道駅舎等管理費	所管課等	交通政策課
事業名	鉄道駅舎等管理運営費		

【事業の成果】

施設の安全性及び利便性を確保し、快適に鉄道を利用していただくことができた。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・施設の快適な利用環境を確保・提供するため、地域住民との協働により駅待合所等の維持管理を行っていく。
- ・平成9年に開業したほくほく線は、駅待合所等の老朽化が進んできていることから、引き続き、適切に維持管理を行うとともに計画的に修繕を進めていく。

【執行残額について】

事業未実施：ほくほく大島駅屋上除雪作業委託料 78
 入札差金：ほくほく大島駅の清掃業務にかかる施設管理委託料 40
 その他：電気料金等の実績が当初見込みを下回ったため 441

(単位：千円)

決算書 (P176～P177)	2 款 5 項 1 目 統計調査総務費	所管課等	企画政策課
事業名	統計調査総務費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
1,801	1,781		810			971
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	20				20	

【目的】

誰もが必要な統計情報が得られる環境を整備する。

令和 2 年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

○令和 2 年度目標

統計要覧の発行を始め、最新の各種統計情報を市民等の利用者に分かりやすく、かつ、利用しやすく提供する。

○実施内容、これまでの経過等

- ・当市の人口、経済、社会等の幅広い分野の最新データを収集し、令和 3 年版上越市統計要覧を発行し、ホームページで公表した。
- ・国が公表した調査結果のうち、当市に関するデータをホームページへ適時に掲載した。

○目標達成状況

統計要覧を計画どおり発行したほか、最新の統計情報をホームページ上に掲載し、市民等に対して、分かりやすく、かつ適時に提供することができた。

【事業の成果】

最新の各種統計調査結果を統計要覧やホームページに掲載することで、市民等が必要な情報入手、活用できる環境を整えることができた。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

今後も各種統計調査を適切に実施し、適時にデータを提供していく。

【執行残額について】

その他：複写機使用料が当初見込みを下回ったことによる残ほか 20

(単位：千円)

決算書 (P176～P179)	2款5項2目 統計調査費	所管課等	企画政策課
事業名	工業統計調査費ほか		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
79,120	77,075		77,075			
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	2,045				2,045	

【目的】

- 各種統計調査等：工業統計調査を始めとする各種統計調査を正確かつ円滑に実施する。
- 統計調査員確保対策事業：各種統計調査を円滑に行うため登録統計調査員を確保するとともに、調査員の資質向上を図る。

令和2年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

■各種統計調査等

○令和2年度目標

大正9年の第1回調査から100年の節目となる国勢調査を始め、各種統計調査を確実に実施する。

○実施内容、これまでの経過等

・各種統計調査の概要

調査名称	区分	対象	概要
工業統計調査	調査実施	製造業に属する全事業所(約500社)	製造品出荷額等の生産活動に関する調査
学校基本調査	調査実施	幼稚園、小学校、中学校、高等学校等	児童・生徒数や教職員数等の学校に関する調査
農林業センサス	事後審査	—	農林業経営体を対象に令和元年度に実施した農林業センサスの修正
国勢調査	調査実施	全世帯	人口・世帯数や世帯構成等の人や世帯に関する調査
経済センサス調査区設定	事前準備	—	経済センサスの調査区の修正
経済センサス-活動調査	事前準備	—	令和3年経済センサス-活動調査の実施に向けた調査員の選考や調査用品の準備事務

決算書 (P176～P179)	2 款 5 項 2 目 統計調査費	所管課等	企画政策課
事業名	工業統計調査費ほか		

○目標達成状況

各種統計調査を所定の審査手順や作業工程に基づき、概ね円滑に進め、正確に実施することができた。

■統計調査員確保対策事業

○令和 2 年度目標

統計調査員の確保に向けた取組を引き続き進めるとともに、調査員の資質の向上を図るため、県の登録調査員研修への参加を促すほか、市主催による実務研修会を実施する。

○実施内容、これまでの経過等

- ・新規登録者を市ホームページ等で募集したほか、令和 2 年国勢調査に従事した調査員に対して登録を案内した。
- ・各種統計調査の業務説明会や調査中の指導・助言等を通じて、調査員の資質向上を図った。

○目標達成状況

- ・新規登録者を公募するとともに、調査員の経験者に対して登録を積極的に働きかけるなど、調査員の確保を図った。
- ・県及び市主催による登録調査員の実務研修会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、実施できなかった。

<登録統計調査員の状況>

登録者数	合併前上越市	13 区計	合計	備考
令和元年度末	119 人	52 人	171 人	年度内増員 35 人、減員 20 人
令和 2 年度末	110 人	45 人	155 人	年度内増員 25 人、減員 41 人
増減	△9 人	△7 人	△16 人	

【事業の成果】

- ・国勢調査では、各町内会や上越商工会議所、上越市国際交流協会等の様々な組織・団体等と連携することなどにより、調査員の確保から市民への周知、調査事務までを効率的に行うことができたほか、その他の各種統計調査についても確実に実施することができた。
- ・統計調査員確保対策事業では、高齢化を理由とした辞退等により登録者は減少したものの、多くの新規登録者を確保し、各種統計調査を円滑に実施することができた。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

登録統計調査員の高齢化等により登録者数が減少傾向にあるため、新たな募集方法等を通じて新規登録者の確保に努める。また、調査員から様々な調査事務を経験してもらうとともに、コロナ禍における研修方法を工夫して行うことで、調査員の資質向上を図る。

【執行残額について】

その他：調査方法や審査方法の変更による交付金の減 2,045

